

調査の概要

1 調査のテーマ・趣旨

- (1) 名古屋の住みやすさ・魅力について
名古屋のまちの住みやすさについての市民の印象を聞き、市政の参考とします。
- (2) 名古屋開府400年に向けた行事について
名古屋開府400年を契機にしたイベントや行事、まちづくり等の施策の参考とします。
- (3) 市政について
平成12年に策定された「名古屋新世紀計画2010」に基づいて選んだ、本市市政の30項目について、市民の評価と要望を把握して、市政運営の参考とします。

2 調査の設計・回収結果

- (1) 調査地域 市内16区全域
- (2) 調査対象 名古屋市内に居住する満20歳以上の男女（外国人を含む）
- (3) 調査地点数 125地点
- (4) 標本数 2,500人
- (5) 標本数抽出法 住民基本台帳及び外国人登録原票をフレームとする無作為抽出法
（確率比例2段抽出法）
- (6) 調査方法 留置法（調査員が調査票を持参し、後日回収に行く）
- (7) 調査期間 平成19年11月15日（木）から12月3日（月）
- (8) 回収結果
調査標本数 2,500人
有効標本回収数 1,628人
有効回収率 65.1%

未回収とその内訳

	実数(人)	比率(%)
拒否・辞退	275	31.5
調査期間中不在	509	58.4
病気・入院	10	1.1
転居・あて先不明	58	6.7
その他	20	2.3
計	872	100.0

- (9) 質問数 32問（他にフェースシート枝質問を含め7問）
- (10) 調査主体 市民経済局地域振興部広聴課
- (11) 委託調査機関 株式会社 サーベイリサーチセンター

3 概要版の見方について

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。このため、合計が100%にならないこともあります。
- (2) 基数となるべき実数は、件数として掲載しました。本文中の比率はすべて件数を100%として算出しました。
- (3) 調査結果では、質問文の最後に(SA)(MA)(FA)の表示があります。SA (Single Answer) は回答を1つだけ選ぶ質問、MA (Multiple Answer) は複数回答が可能な質問、FA (Free Answer) は選択肢のない自由記入回答であることを表しています。
- (4) 複数回答が可能な質問では、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%なのかという見方をします。このため、各項目の比率の合計は通常100%を超えます。
- (5) 本報告書中の文章、表、グラフ等の見出しの回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。

4 標本構成

性別(上段: %、下段: 実数 以下同じ)

全 体	男 性	女 性
100.0 1,628	47.1 767	52.9 861

年代

全 体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
100.0 1,628	12.8 209	13.0 211	18.6 302	21.4 349	21.4 349	12.8 208

性・年代

男 全 体	男20歳代	男30歳代	男40歳代	男50歳代	男60歳代	男70歳代以上
47.1 767	6.4 104	6.0 98	8.7 141	9.6 156	9.6 156	6.9 112

女 全 体	女20歳代	女30歳代	女40歳代	女50歳代	女60歳代	女70歳代以上
52.9 861	6.4 105	6.9 113	9.9 161	11.9 193	11.9 193	5.9 96

職業

全 体	会社員 (フルタイム)	公務員	自営・ 自由業	アルバイト・ パート	家事専業	学 生	無 職	その他	無回答
100.0 1,628	29.3 477	2.1 34	13.0 211	14.7 240	16.2 264	3.3 53	15.8 258	4.4 72	1.2 19

居住状況

全 体	生まれてからずっと名古屋市に住んでいる	名古屋市以外から引っ越してきた	無 回 答
100.0 1,628	59.2 964	39.3 639	1.5 25

転居前の居住地

全 体	東海三県	東海三県以外から	無 回 答
100.0 639	49.5 316	50.1 320	0.5 3

居住年数

全 体	30年以上	20年以上 30年未満	10年以上 20年未満	5年以上 10年未満	5年未満	無 回 答
100.0 1,628	70.3 1,145	19.2 313	6.3 103	2.4 39	0.7 12	1.0 16

居住区

全 体	千種区	東 区	北 区	西 区	中村区	中 区	昭和区	瑞穂区
100.0 1,628	7.9 128	3.4 55	7.8 127	6.1 100	6.1 100	2.0 33	4.7 77	4.7 76
	熱田区	中川区	港 区	南 区	守山区	緑 区	名東区	天白区
	3.3 54	8.8 144	7.5 122	7.4 120	7.6 123	8.0 130	7.3 119	7.4 120

5 調査地点数

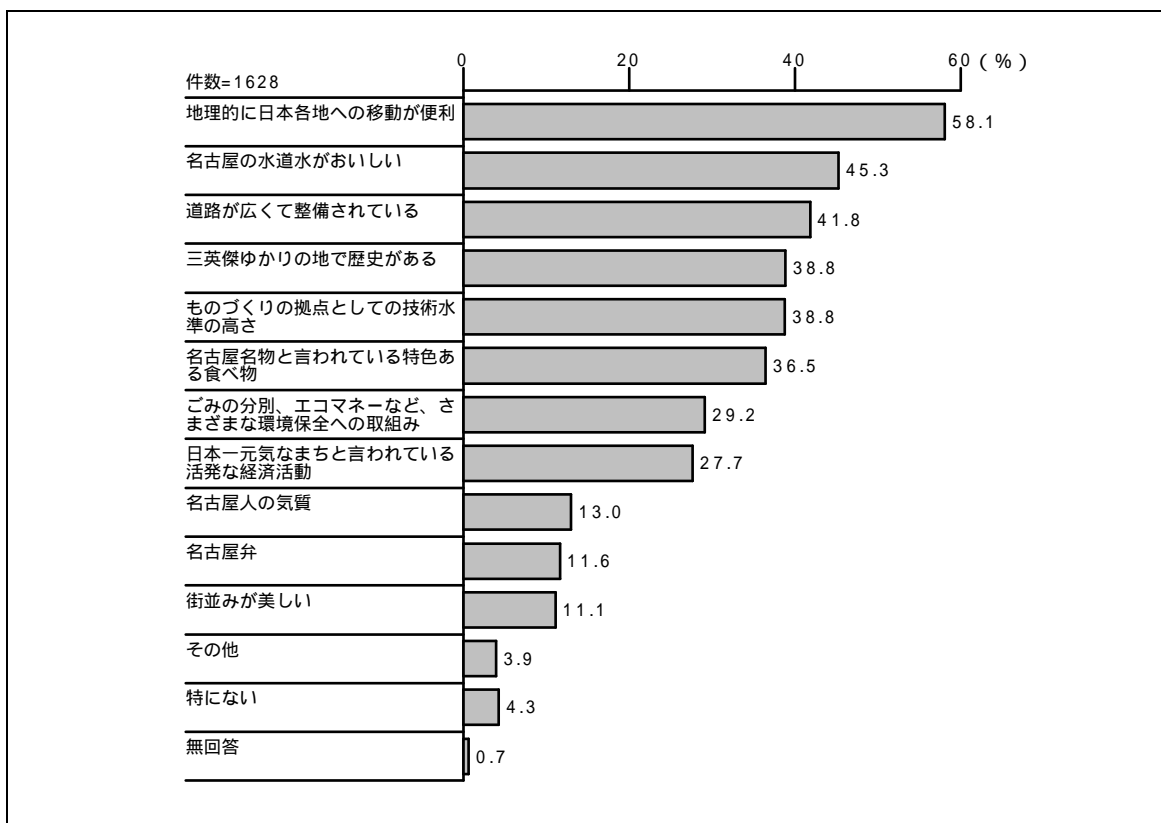
区 名	地点数	対象者数	区 名	地点数	対象者数	区 名	地点数	対象者数
千種区	9	180(5)	昭和区	6	120(4)	守山区	9	180(4)
東 区	4	80(3)	瑞穂区	6	120(2)	緑 区	11	220(4)
北 区	9	180(4)	熱田区	4	80(2)	名東区	9	180(3)
西 区	8	160(3)	中川区	11	220(6)	天白区	9	180(3)
中村区	8	160(4)	港 区	9	180(8)			
中 区	4	80(7)	南 区	9	180(5)	合 計	125	2,500(67)

()内は外国人数

調査結果の詳細

1 名古屋の住みやすさ・魅力について

(1) 名古屋の良いところ(問1・MA)



名古屋の誇れるところや良いところをたずねたところ、「地理的に日本各地への移動が便利」(58.1%)と答えた人が約6割で最も高く、次いで「名古屋の水道水がおいしい」(45.3%)、「道路が広くて整備されている」(41.8%)が4割台で続いています。

単位：構成比（％）

	件数	地理的に日本各地への移動が便利	名古屋の水道水がおいしい	道路が広くて整備されている	三英傑ゆかりの地で歴史がある	ものづくりの拠点としての技術水準の高さ	名古屋名物と言われている特色ある食べ物	名古屋名物と言われている特色ある食べ物	ごみの分別、エコマネーなど、さまざまな環境保全への取り組み	活発な経済活動	日本一元気なまちと言われている	名古屋人の気質	名古屋弁	街並みが美しい	その他	持にない	無回答	回答個数（平均）
全体	1628	58.1	45.3	41.8	38.8	38.8	36.5	29.2	27.7	13.0	11.6	11.1	3.9	4.3	0.7	3.6		
性別	男性	767	56.3	43.2	42.0	37.0	39.9	32.9	22.8	26.9	12.6	10.2	8.6	3.5	5.0	1.0	3.4	
	女性	861	59.7	47.2	41.7	40.4	37.7	39.7	34.8	28.5	13.4	12.9	13.2	4.3	3.7	0.3	3.8	
年代別	20歳代	209	50.7	25.4	18.3	28.7	29.2	56.5	15.3	21.5	10.0	20.6	5.3	6.2	5.7	0.5	2.9	
	30歳代	211	50.7	30.8	31.8	30.8	43.1	15.2	24.2	11.8	9.5	5.7	6.2	6.6	0.5	3.0		
	40歳代	302	60.3	36.8	38.1	38.4	40.4	40.7	21.9	27.8	7.6	7.9	7.3	1.7	4.6	0.3	3.3	
	50歳代	349	59.0	47.0	44.1	37.8	44.7	30.7	30.4	24.6	11.7	8.9	12.0	2.9	3.2	0.6	3.6	
	60歳代	349	60.2	56.4	53.0	40.7	38.1	25.8	41.8	29.2	15.8	12.0	14.6	4.6	3.7	0.9	4.0	
	70歳以上	208	64.9	70.7	60.6	56.3	45.2	31.3	44.7	39.9	22.6	13.9	20.2	3.4	2.9	1.4	4.8	

性別でみると、「ごみの分別、エコマネーなど、さまざまな環境保全への取り組み」と答えた人は、男性（22.8％）よりも女性（34.8％）で10ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、「名古屋の水道水がおいしい」「道路が広くて整備されている」「ごみの分別、エコマネーなど、さまざまな環境保全への取り組み」と答えた人は60歳代と70歳以上で高く、「三英傑ゆかりの地で歴史がある」「日本一元気なまちと言われている活発な経済活動」「名古屋人の気質」「街並みが美しい」と答えた人は70歳以上で高くなっています。

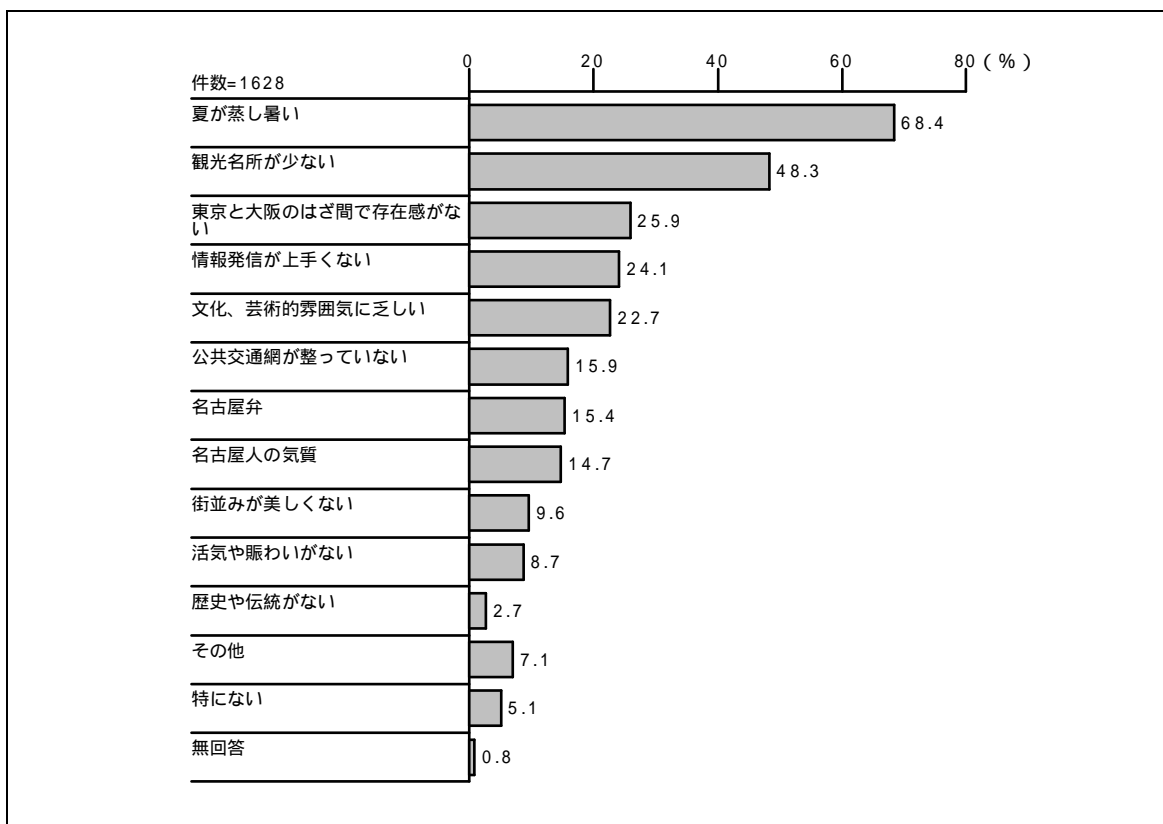
また、「名古屋名物と言われている特色ある食べ物」「名古屋弁」と答えた人は20歳代で高くなっています。

回答した回答個数の平均をみると、高年齢層になるほど名古屋の良いところを多く回答しており、20歳代では2.9個であるのに対し、70歳以上では4.8個となっています。

性・年代別でみると、「ものづくりの拠点としての技術水準の高さ」（50.9％）、「日本一元気なまちと言われている活発な経済活動」（42.9％）、「名古屋人の気質」（24.1％）と答えた人は男性70歳以上で高くなっています。「ごみの分別、エコマネーなど、さまざまな環境保全への取り組み」と答えた人は女性60歳代、70歳以上で多く、「街並みが美しい」と答えた人は女性70歳以上（26.0％）で高くなっています。また、「名古屋名物と言われている特色ある食べ物」（62.9％）、「名古屋弁」（23.8％）と答えた人は女性20歳代で高くなっています。

居住層別でみると、「名古屋名物と言われている特色ある食べ物」と答えた人は生まれてからずっと名古屋市に住んでいる人は41.3％と4割を超え、名古屋市以外から引っ越してきた人（29.4％）とは10ポイント以上の差があります。

(2) 名古屋の悪いところ(問2・MA)



名古屋の悪いところや嫌いなところをたずねたところ、「夏が蒸し暑い」(68.4%)と答えた人が7割弱で最も高く、次いで「観光名所が少ない」(48.3%)が5割弱、「東京と大阪のはざ間で存在感がない」(25.9%)、「情報発信が上手くない」(24.1%)、「文化、芸術的雰囲気に乏しい」(22.7%)が2割台で続いています。

単位：構成比（％）

	件数	夏が蒸し暑い	観光名所が少ない	東京と大阪のはざ間で存在感がない	情報発信が上手くない	文化、芸術的雰囲気不足	公共交通網が整っていない	名古屋弁	名古屋人の気質	街並みが美しくない	活気や賑わいがない	歴史や伝統がない	その他	特になし	無回答	回答個数（平均）	
全体	1628	68.4	48.3	25.9	24.1	22.7	15.9	15.4	14.7	9.6	8.7	2.7	7.1	5.1	0.8	2.7	
性別	男性	767	62.7	43.8	25.9	27.4	21.3	19.0	13.7	14.3	9.1	9.5	3.0	6.3	6.1	0.8	2.6
	女性	861	73.5	52.4	25.8	21.1	23.9	13.1	17.0	15.1	10.0	7.9	2.4	7.8	4.2	0.8	2.7
年代別	20歳代	209	65.6	43.1	20.6	17.7	14.8	15.3	13.9	14.8	10.5	5.3	0.5	12.0	5.3	0.5	2.4
	30歳代	211	56.9	41.7	22.3	19.0	18.0	15.6	12.3	17.1	9.0	10.0	1.9	10.0	6.2	0.5	2.4
	40歳代	302	68.5	46.4	22.8	23.8	20.5	20.2	14.9	14.6	9.3	6.3	2.0	5.0	4.3	1.0	2.6
	50歳代	349	68.5	48.4	26.4	25.8	25.8	16.9	16.9	16.0	7.7	10.6	2.9	6.9	4.3	0.3	2.8
	60歳代	349	73.6	54.4	29.8	26.1	27.5	14.3	18.1	13.8	10.0	8.9	2.6	5.7	5.4	1.1	2.9
	70歳以上	208	74.0	52.9	31.7	29.8	25.0	11.5	13.9	12.0	12.0	10.6	6.7	4.8	5.8	1.4	2.9

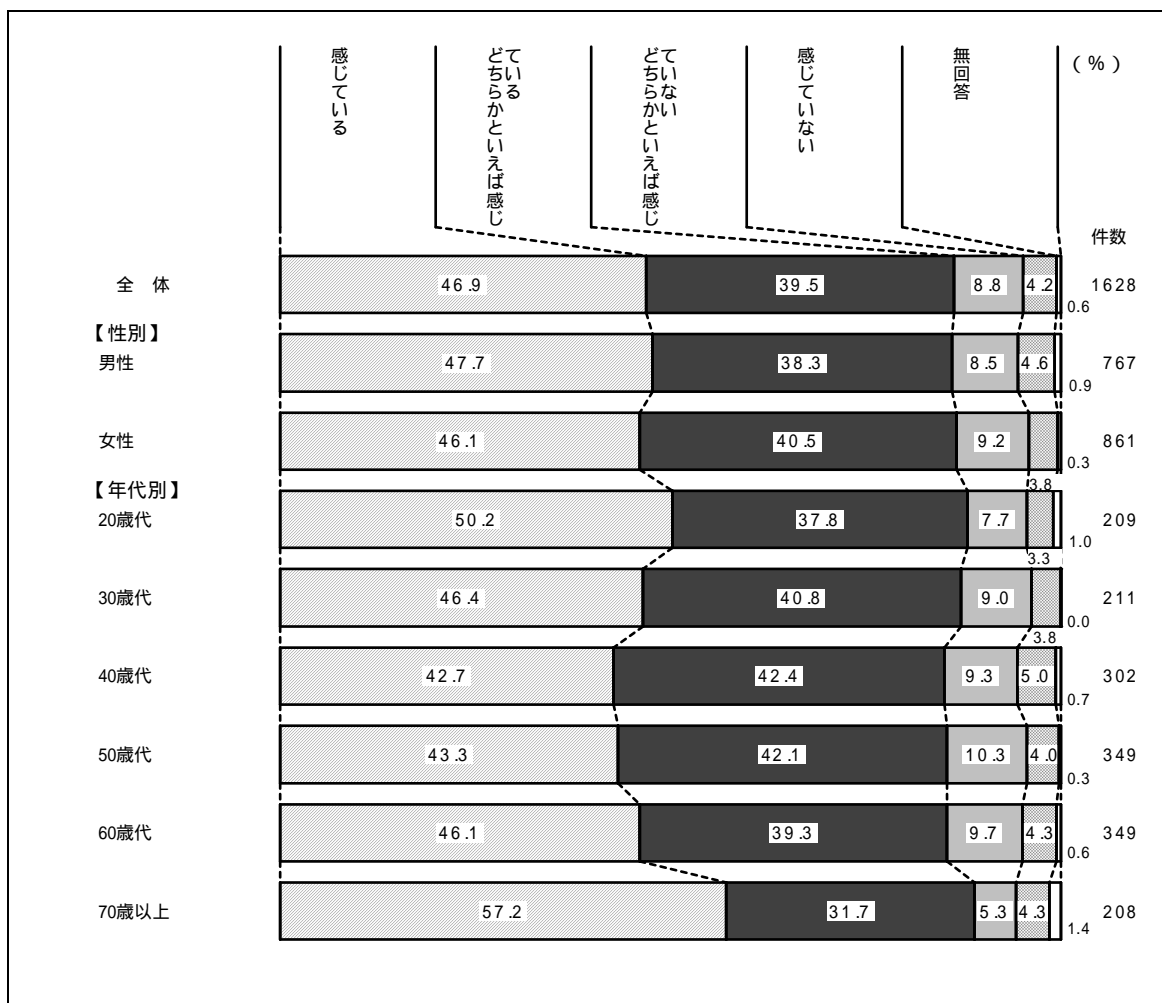
性別で見ると、「夏が蒸し暑い」「観光名所が少ない」と答えた人は女性で高く、「情報発信が上手くない」「公共交通網が整っていない」と答えた人は男性で高くなっています。

年代別で見ると、「夏が蒸し暑い」「観光名所が少ない」と答えた人は60歳代、70歳以上で高くなっています。「東京と大阪のはざ間で存在感がない」「情報発信が上手くない」と答えた人は高齢層になるにしたがって割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、「夏が蒸し暑い」と答えた人は女性の40歳代以上の年代層で高くなっています。「観光名所が少ない」と答えた人は女性60歳代、70歳以上で高くなっています。また、「情報発信が上手くない」と答えた人は男性60歳代（34.0%）で、「公共交通が整っていない」と答えた人は男性40歳代（24.1%）で、「名古屋人の気質」と答えた人は女性30歳代（23.0%）で高くなっています。

居住層別で見ると、「名古屋人の気質」「夏が蒸し暑い」と答えた人は名古屋以外から引っ越してきた人に高くなっています。

(3) 名古屋への愛着度 (問3・SA)



名古屋への愛着を「感じている¹」と答えた人は86.4%を占めています。一方、愛着は「感じていない²」と答えた人は13.0%となっています。

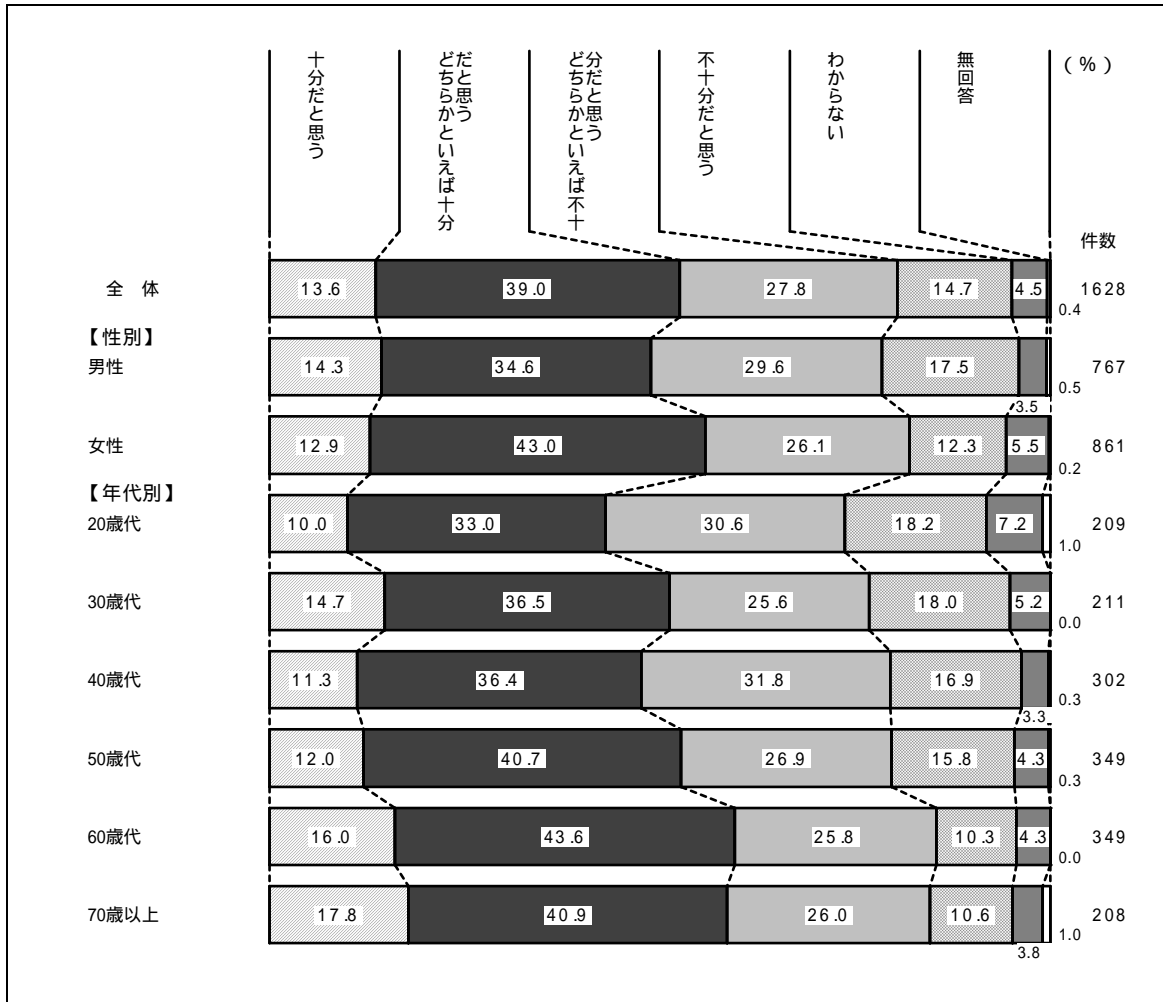
性別でも、大きな差はみられません。

年代別で見ると、「感じている¹」と答えた人の割合は、年代による大きな差はみられませんが、愛着を「感じている」と答えた人は70歳以上が57.2%で高くなっています。

1 「感じている」 + 「どちらかといえば感じている」

2 「感じていない」 + 「どちらかといえば感じていない」

(4) 名古屋市内の自然環境の充足度(問4・SA)



名古屋市内の緑や水などの自然環境の充足度についてたずねたところ、「十分だと思う¹」(52.6%)人は半数以上を占めます。一方、「不十分だと思う²」と答えた人は42.5%となっています。

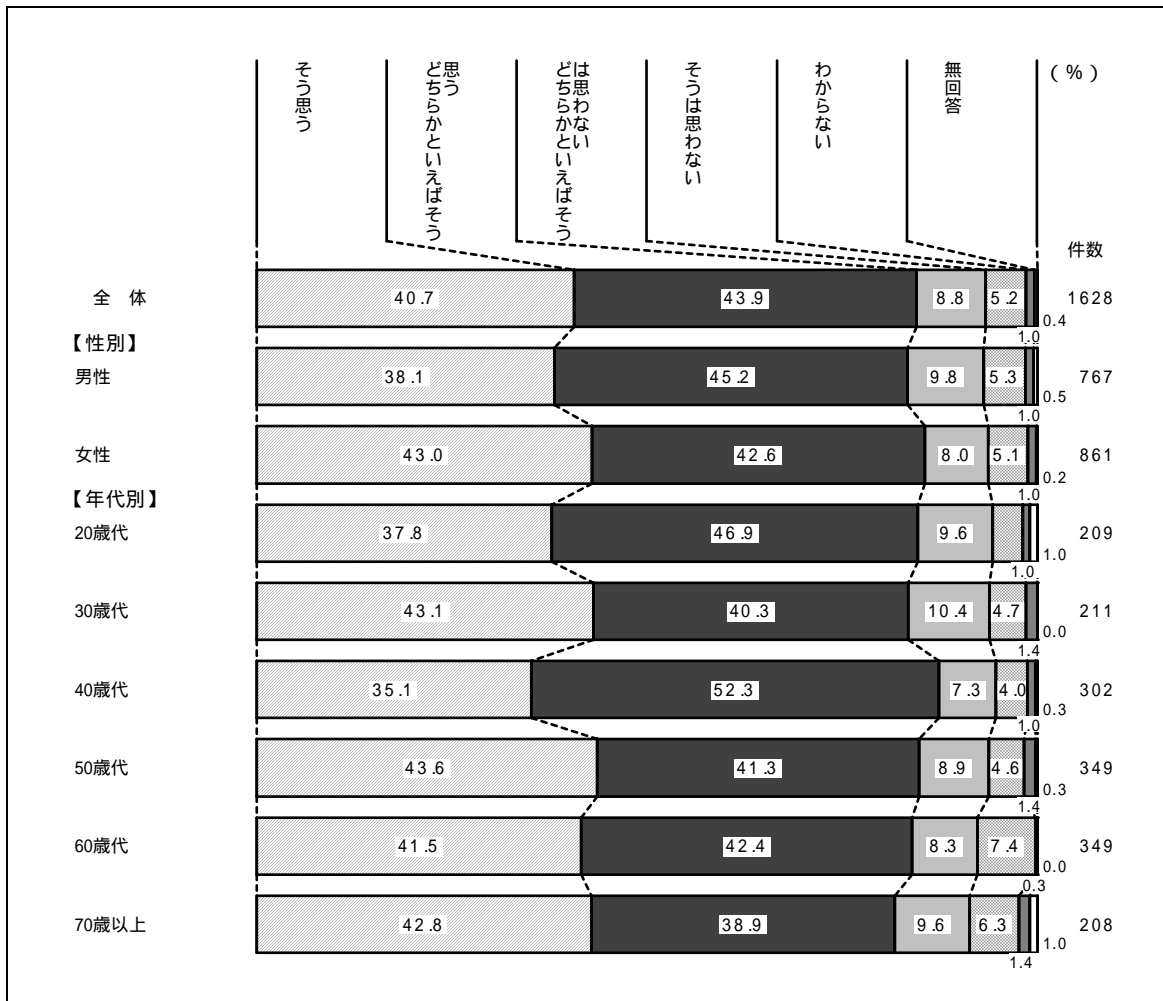
性別で見ると、「十分だと思う¹」と答えた人は男性(48.9%)よりも女性(55.9%)の方が高くなっています。男性は「十分だと思う¹」(48.9%)「不十分だと思う²」(47.1%)の割合が拮抗しています。

年代別で見ると、「十分だと思う¹」と答えた人は60歳代(59.6%)、70歳以上(58.7%)では6割弱を占めて高くなっています。一方、「不十分だと思う²」と答えた人は20歳代(48.8%)、40歳代(48.7%)で高くなっています。

1 「十分だと思う」+「どちらかといえば十分だと思う」

2 「不十分だと思う」+「どちらかといえば不十分だと思う」

(5) 名古屋市内の生活の利便性 (問 5 ・ S A)



“ 名古屋市は買物する場所や病院などが身近にあって生活に便利なまちか ” についてたずねたところ、「そう思う¹」(84.6%)と答えた人は8割を超えています。一方、「そうは思わない²」と答えた人は14.0%となっています。

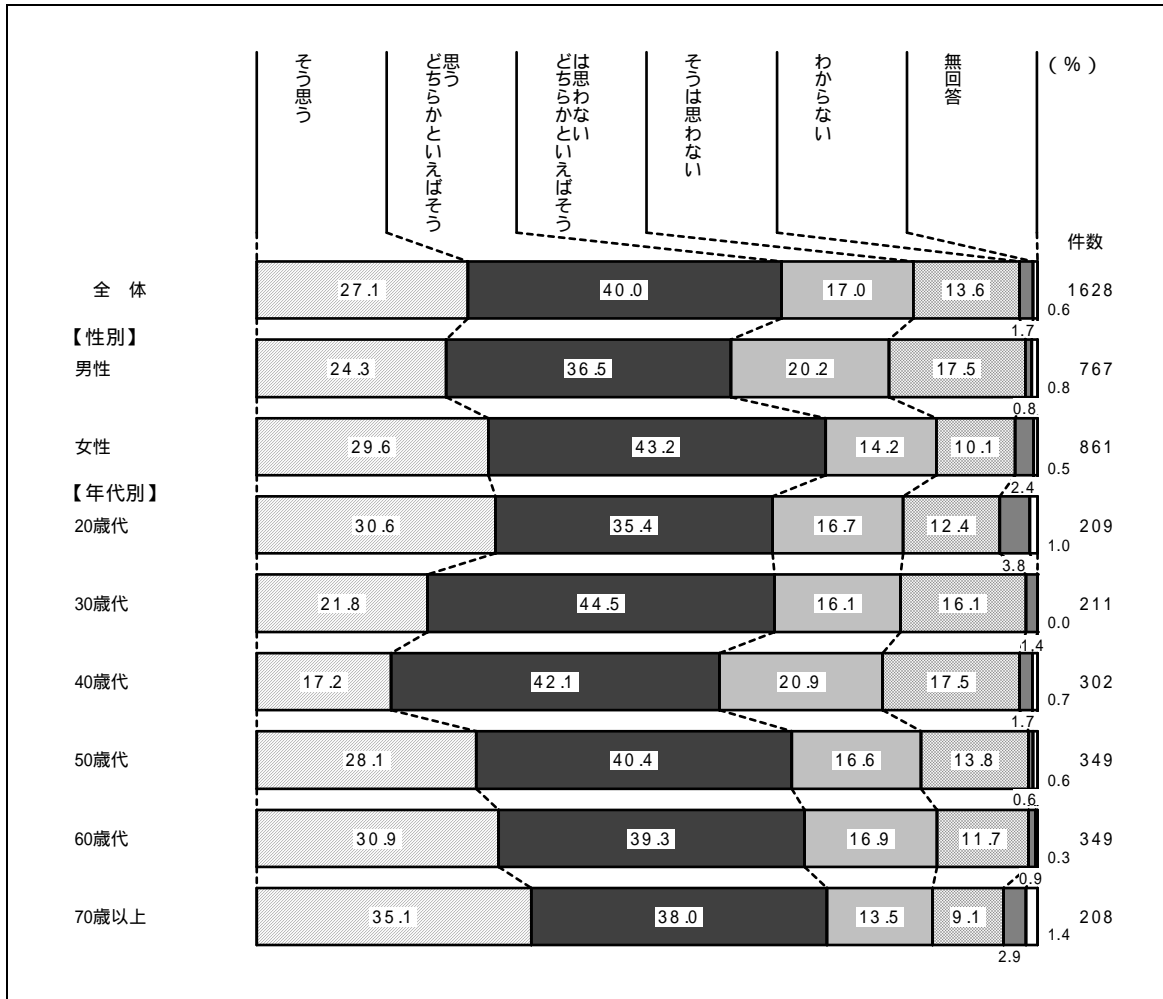
性別で見ると、大きな差はみられません。

年代別で見ると、「どちらかといえばそう思う」と答えた人は40歳代(52.3%)で高くなっていますが、「そう思う¹」と答えた人の割合では、年代による大きな差はみられません。

1 「そう思う」 + 「どちらかといえばそう思う」

2 「そうは思わない」 + 「どちらかといえばそうは思わない」

(6) 名古屋市内の通勤・通学の利便性 (問 6 ・ S A)



“ 名古屋市は公共交通機関が整備され、通勤・通学や移動に便利なまちか ” についてたずねたところ、「そう思う¹」と答えた人は67.1%、「そうは思わない²」と答えた人は30.6%であり、そう思う人がそう思わない人の2倍以上の割合を占めています。

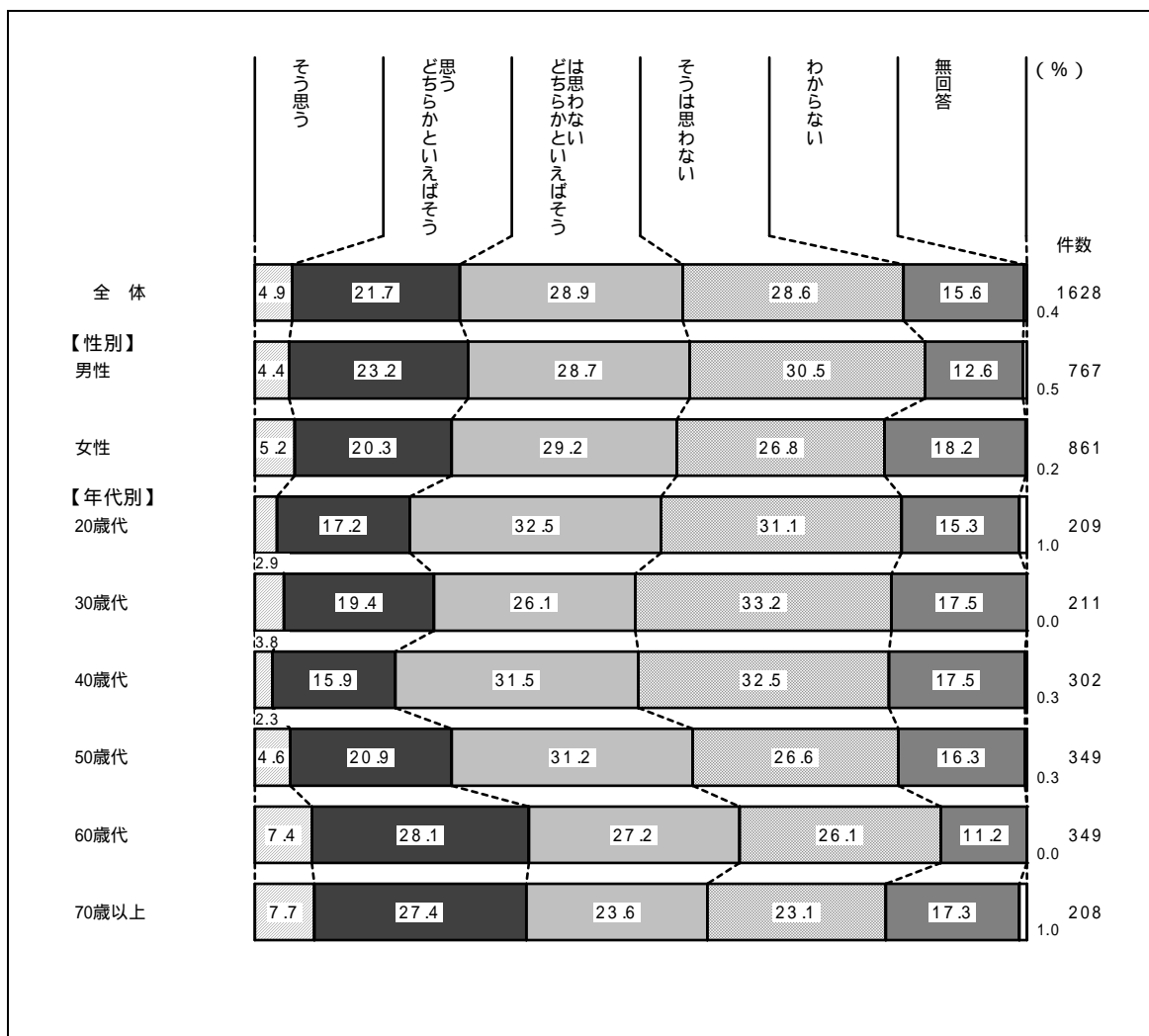
性別で見ると、「そう思う¹」と答えた人は、男性（60.8%）よりも女性（72.8%）の方が高くなっています。

年代別で見ると、「そう思う¹」と答えた人は、60歳代（70.2%）、70歳以上（73.1%）と7割を超えていますが、40歳代（59.3%）では約6割となっています。

1 「そう思う」 + 「どちらかといえばそう思う」

2 「そうは思わない」 + 「どちらかといえばそうは思わない」

(7) 名古屋市の自然災害対策の充足度(問7・SA)



“名古屋市は地震や風水害などの自然災害に強いまちか”についてたずねたところ、「そう思う¹」と答えた人は26.6%、「そうは思わない²」と答えた人は57.5%であり、そう思わない人がそう思う人の2倍以上の割合を占めています。

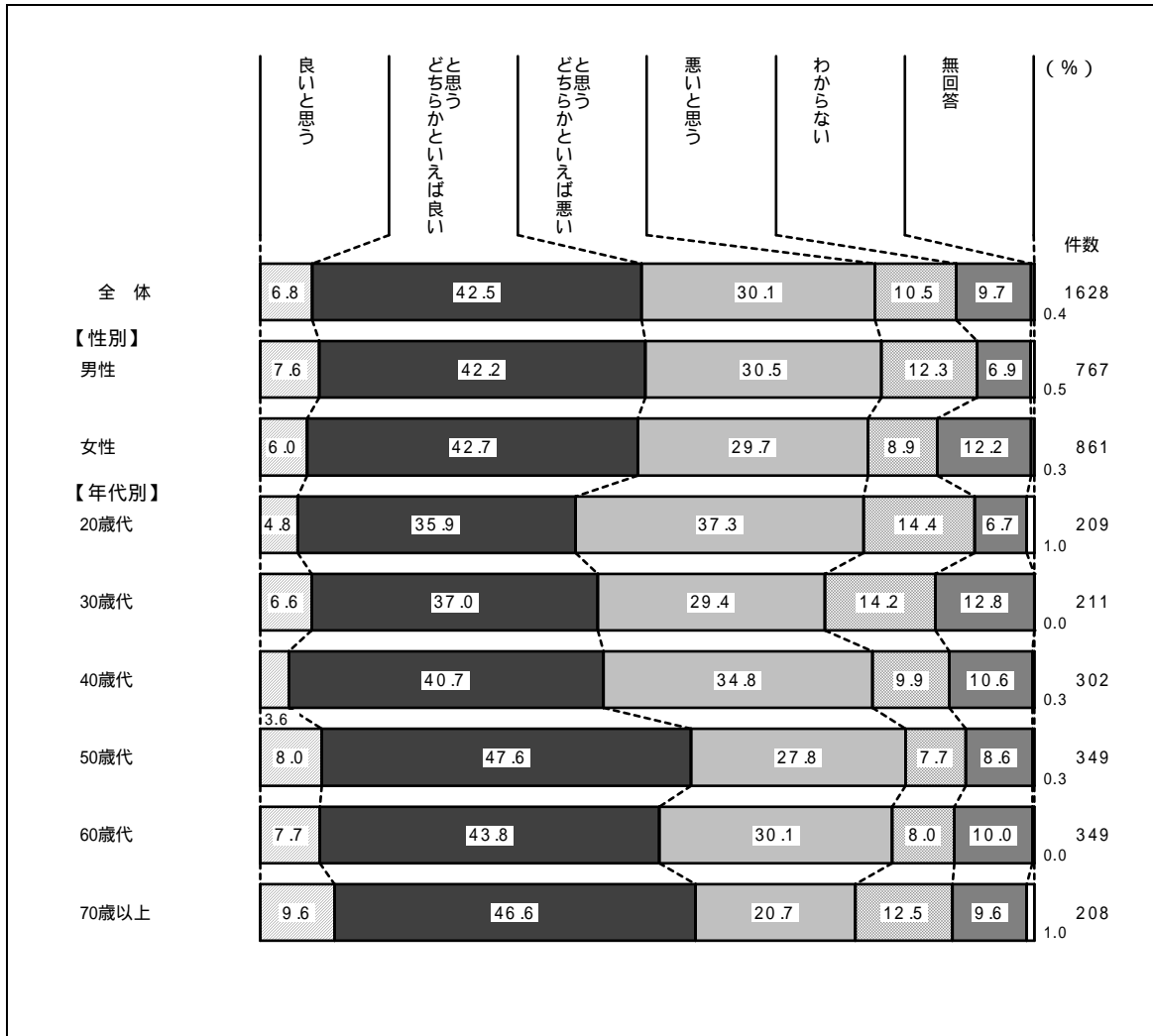
性別で見ると、大きな差はみられません。

年代別で見ると、「そうは思わない²」と答えた人は、20歳代(63.6%)、30歳代(59.3%)、40歳代(64.0%)で高くなっています。一方、「そう思う¹」と答えた人は60歳代(35.5%)、70歳以上(35.1%)が3割台で高くなっています。

1 「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」

2 「そうは思わない」+「どちらかといえばそうは思わない」

(8) 名古屋市内の治安について (問 8 ・ S A)



“ 名古屋市の治安についてたずねたところ、「良いと思う¹」人は49.3%と約5割と
なっています。一方、「悪いと思う²」と答えた人は40.6%となっています。

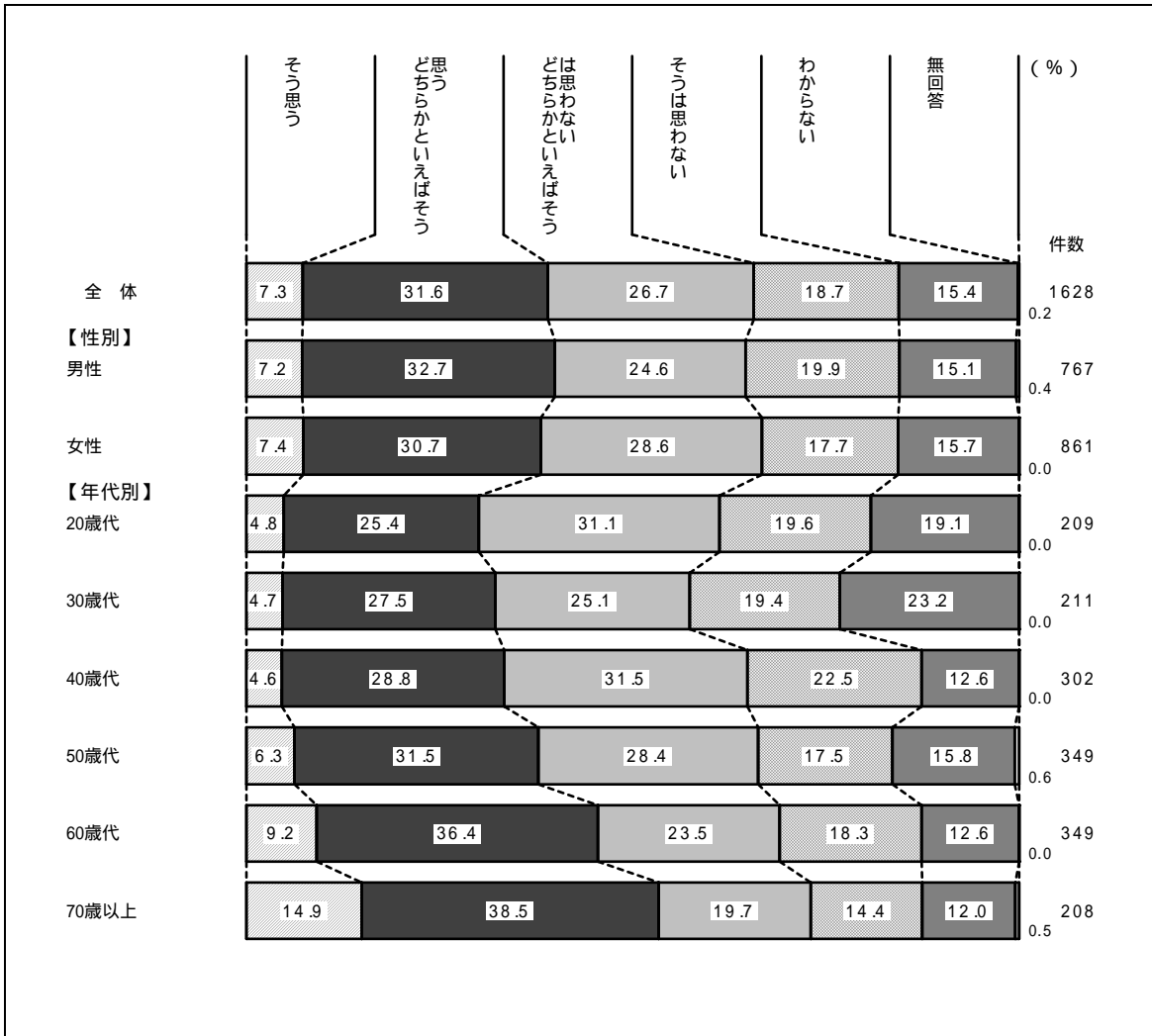
性別で見ると、「悪いと思う²」と答えた人は女性（38.6%）よりも男性（42.8%）の
方が高くなっています。

年代別で見ると、「良いと思う¹」と答えた人は50歳代（55.6%）\ 60歳代（51.5%）\
70歳以上（56.2%）では5割を超えています。一方、「悪いと思う²」と答えた人は20歳
代（51.7%）で5割を超えています。

1 「良いと思う」 + 「どちらかといえば良いと思う」

2 「悪いと思う」 + 「どちらかといえば悪いと思う」

(9) 名古屋市の高齢者や障がい者にとっての住みやすさについて (問9・SA)



“名古屋市は高齢者や障がい者にとって住みやすいまちか” についてたずねたところ、「そう思う¹」と答えた人は38.9%、「そうは思わない²」と答えた人は45.4%であり、そう思わない人の割合が高くなっています。

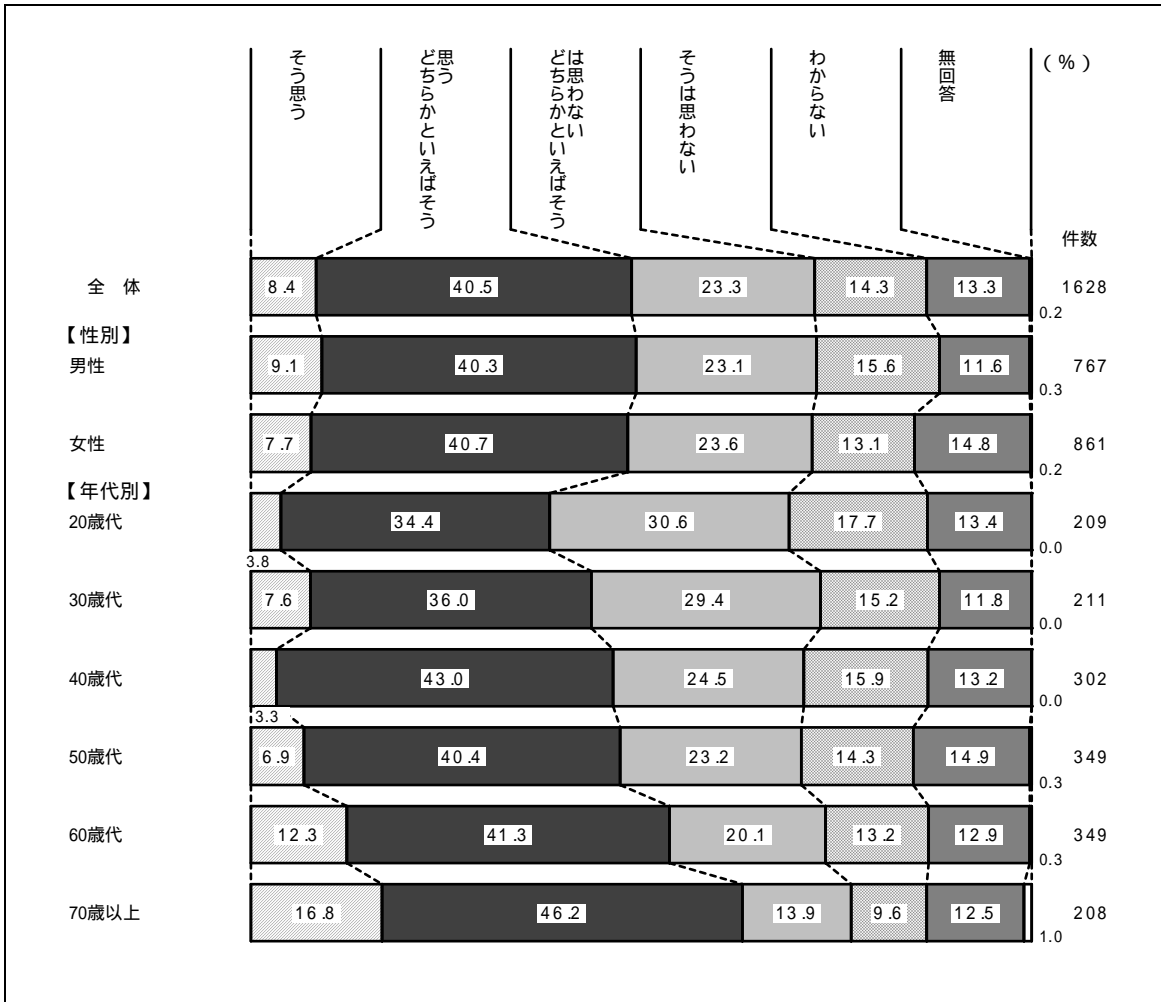
性別で見ると、大きな差はみられません。

年代別で見ると、「そう思う¹」と答えた人の割合は年代が高くなるにつれて増加しており、70歳以上（53.4%）では5割以上を占めています。一方「そうは思わない²」は20歳代（50.7%）と40歳代（54.0%）で5割以上を占めています。

1 「そう思う」 + 「どちらかといえばそう思う」

2 「そうは思わない」 + 「どちらかといえばそうは思わない」

(10) 名古屋市の子どもの育成環境について(問10・S A)



“名古屋市は子どもが健やかに育ちやすい環境のまちか”についてたずねたところ、「そう思う¹」と答えた人は48.9%、「そうは思わない²」と答えた人は37.6%で、そう思う人の割合の方が高くなっています。

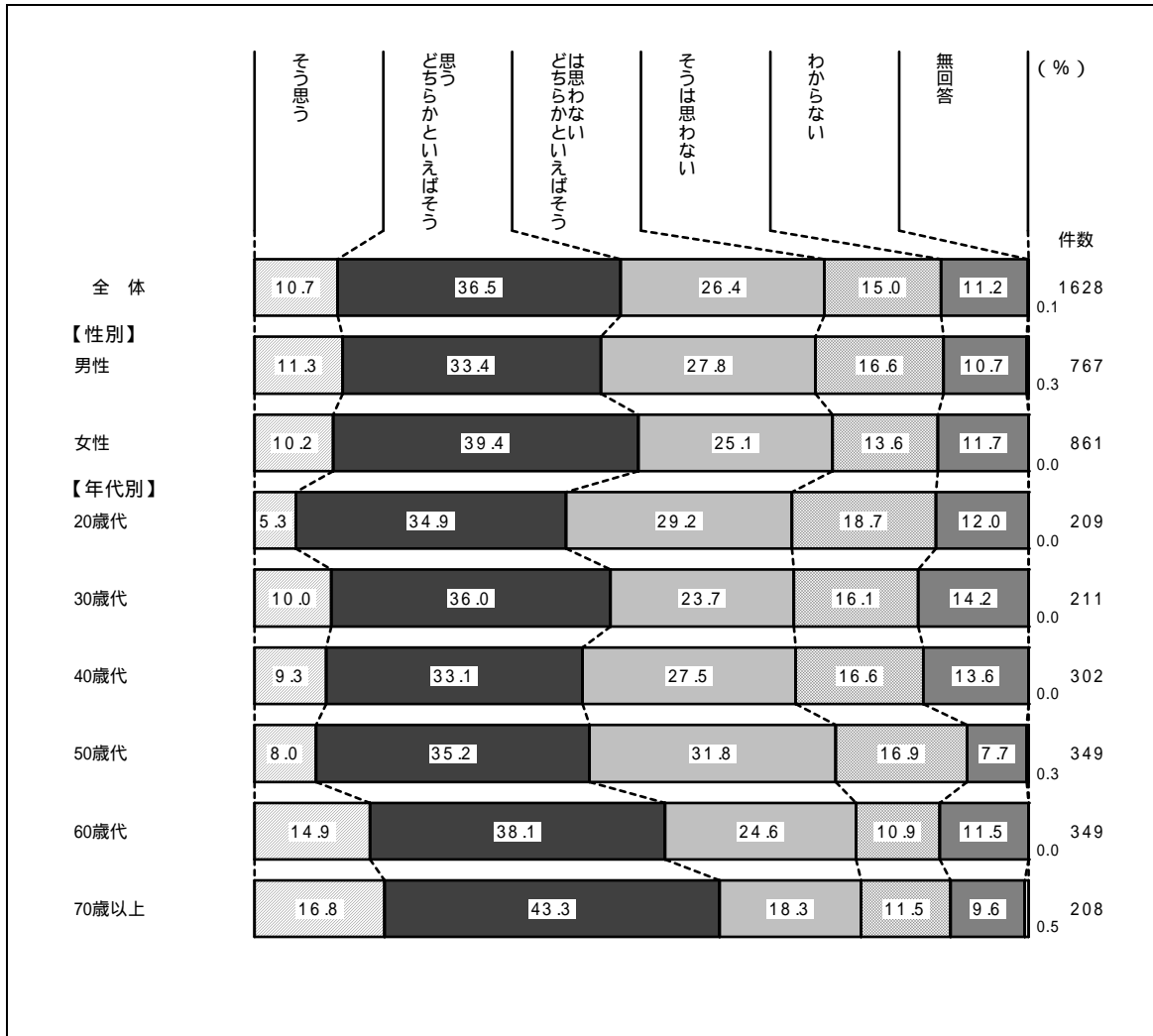
性別で見ると、大きな差はみられません。

年代別で見ると、「そうは思わない²」と答えた人は年齢が低いほど割合は高くなっており、70歳以上は23.5%であるのに対し20歳代では48.3%となっています。

1 「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」

2 「そうは思わない」+「どちらかといえばそうは思わない」

(11) 名古屋市でのスポーツ・文化・芸術活動の楽しみやすさ(問11・S A)



名古屋市でのスポーツ・文化・芸術活動の楽しみやすさについてたずねたところ、「そう思う¹」と答えた人は47.2%、「そうは思わない²」と答えた人は41.4%で、そう思う人の割合の方が高くなっています。

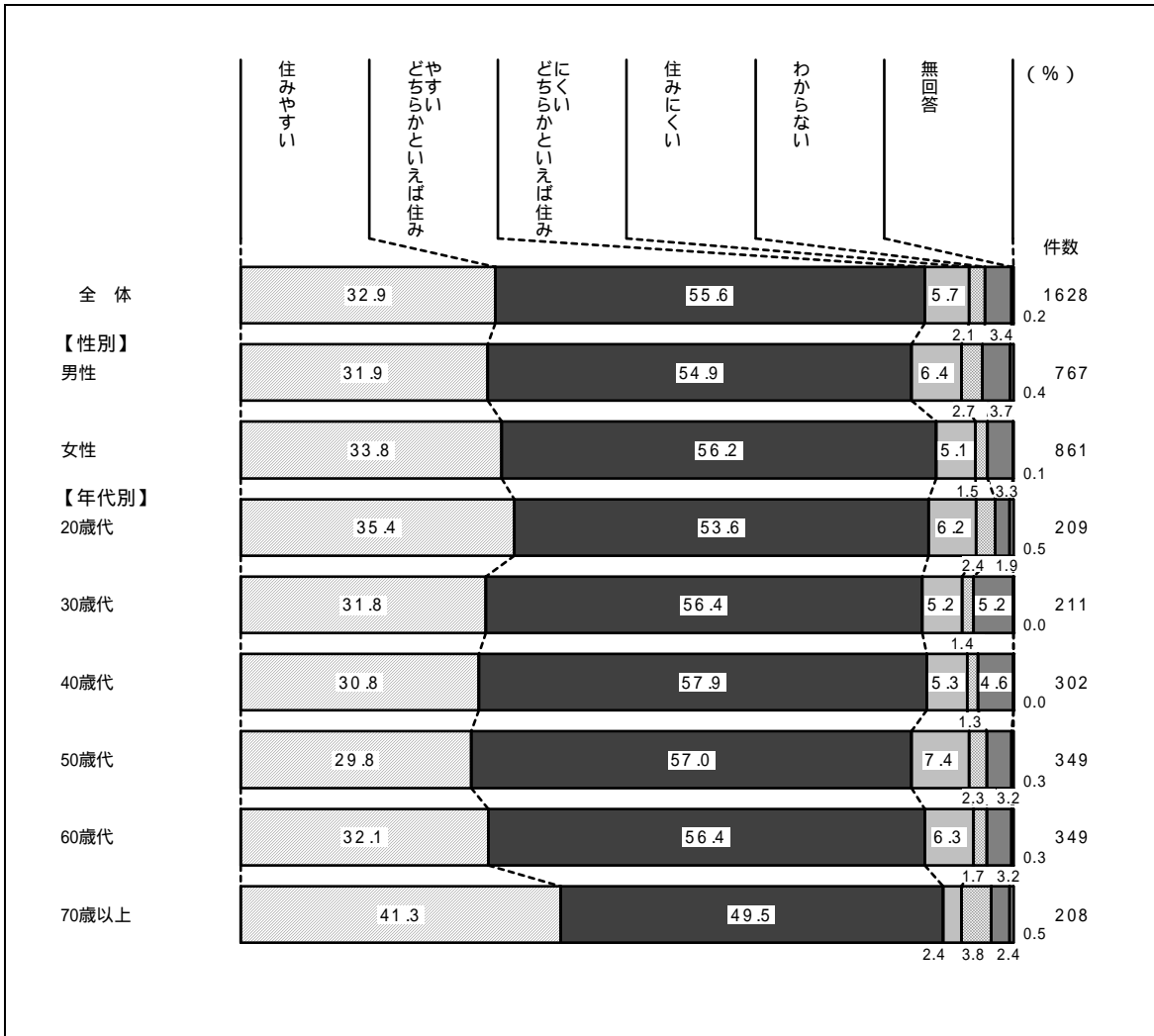
性別で見ると、「そう思う¹」と答えた人は男性(44.7%)よりも女性(49.6%)の方に高くなっています。

年代別で見ると、「そう思う¹」と答えた人は60歳代(53.0%)、70歳以上(60.1%)といった高年齢層で高くなっています。一方、「そうは思わない²」と答えた人は20歳代(47.9%)、50歳代(48.7%)で高くなっています。

1 「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」

2 「そうは思わない」+「どちらかといえばそうは思わない」

(12) 名古屋市の住みやすさ (問12・S A)



名古屋市が「住みやすい¹」と答えた人は88.5%を占めています。一方、「住みにくい²」と答えた人は7.8%と1割未満となっています。

性別で見ると、大きな差はみられません。

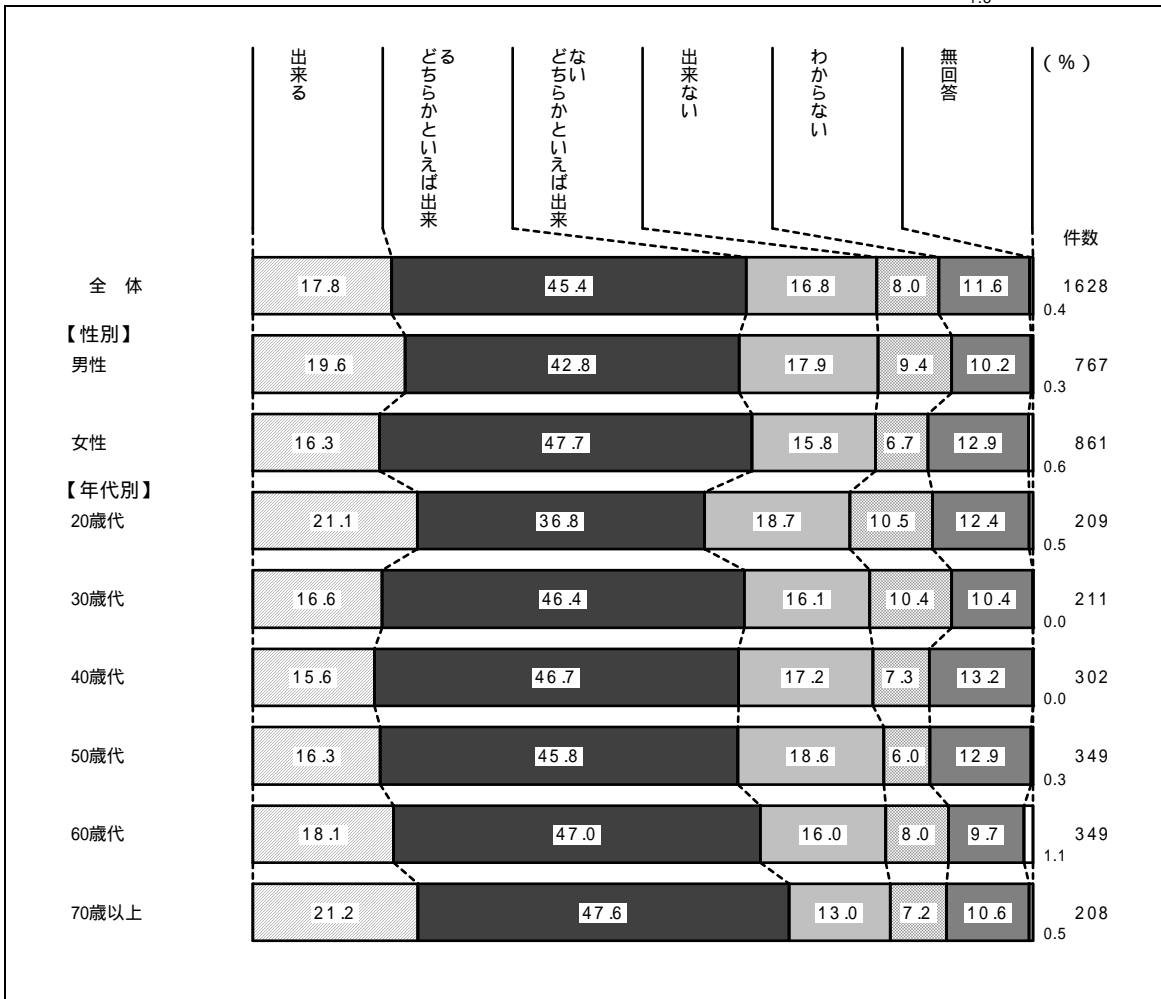
年代別で見ると、「住みやすい¹」と答えた人はすべての年代層で8割を超え、特に70歳以上(90.8%)では9割を超えています。

1 「住みやすい」 + 「どちらかといえば住みやすい」

2 「住みにくい」 + 「どちらかといえば住みにくい」

(13) 名古屋を他都市の人に自慢できるかどうか(問13・S A)

1.3



“名古屋を他都市の人に自慢できるかどうか”をたずねたところ、「出来る¹」(63.2%)と答えた人は6割以上を占めています。一方、「出来ない²」と答えた人は24.8%となっています。

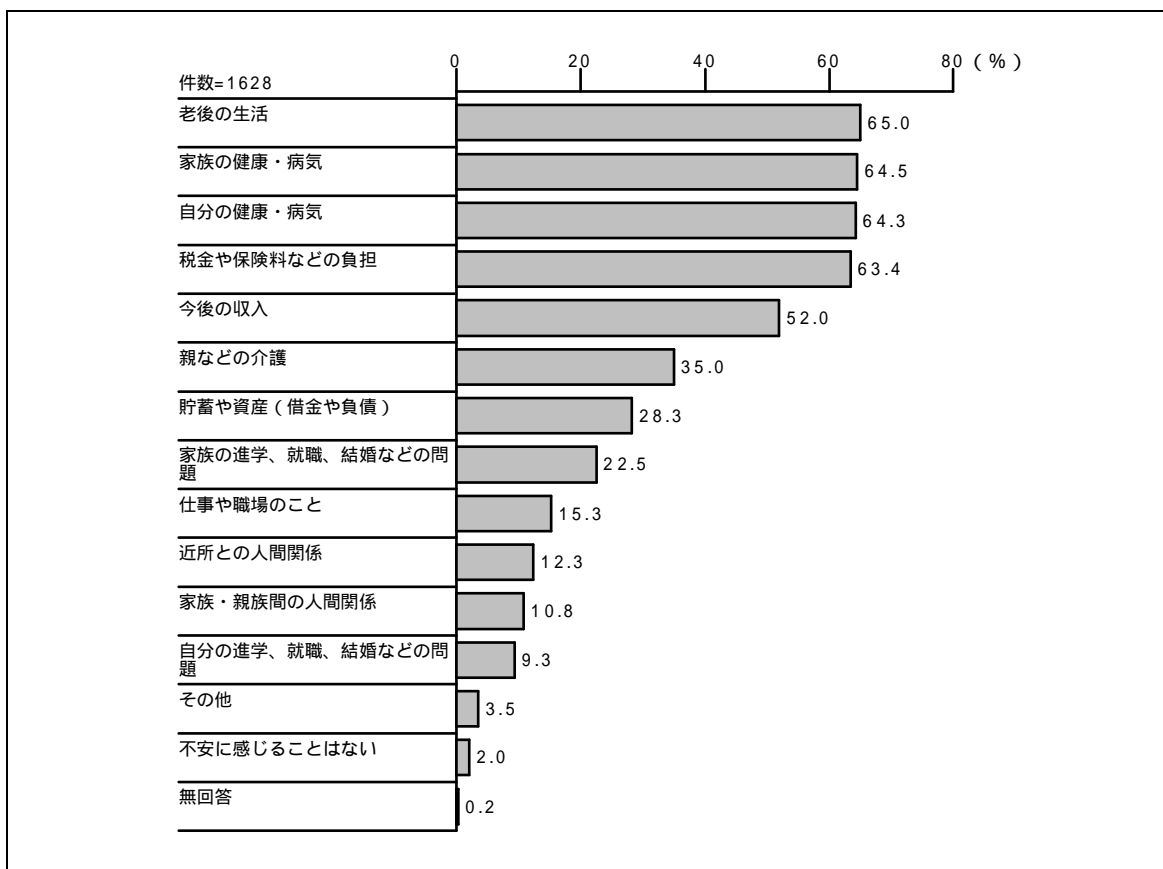
性別で見ると、「出来ない²」と答えた人は、女性(22.5%)よりも男性(27.3%)の方が高くなっています。

年代別で見ると、「出来る¹」と答えた人は、20歳代以外の各年代層では6割を超えています。20歳代(57.9%)は6割を下回っています。

1 「出来る」+「どちらかといえば出来る」

2 「出来ない」+「どちらかといえば出来ない」

(14) 今後の生活で不安に感じること(問14・MA)



今の生活を考えたとき不安に感じることは、「老後の生活」(65.0%)、「家族の健康・病気」(64.5%)、「自分の健康・病気」(64.3%)、「税金や保険料などの負担」(63.4%)といった項目が6割台で高く、これらに次いで「今後の収入」(52.0%)と答えた人が5割台で高くなっています。

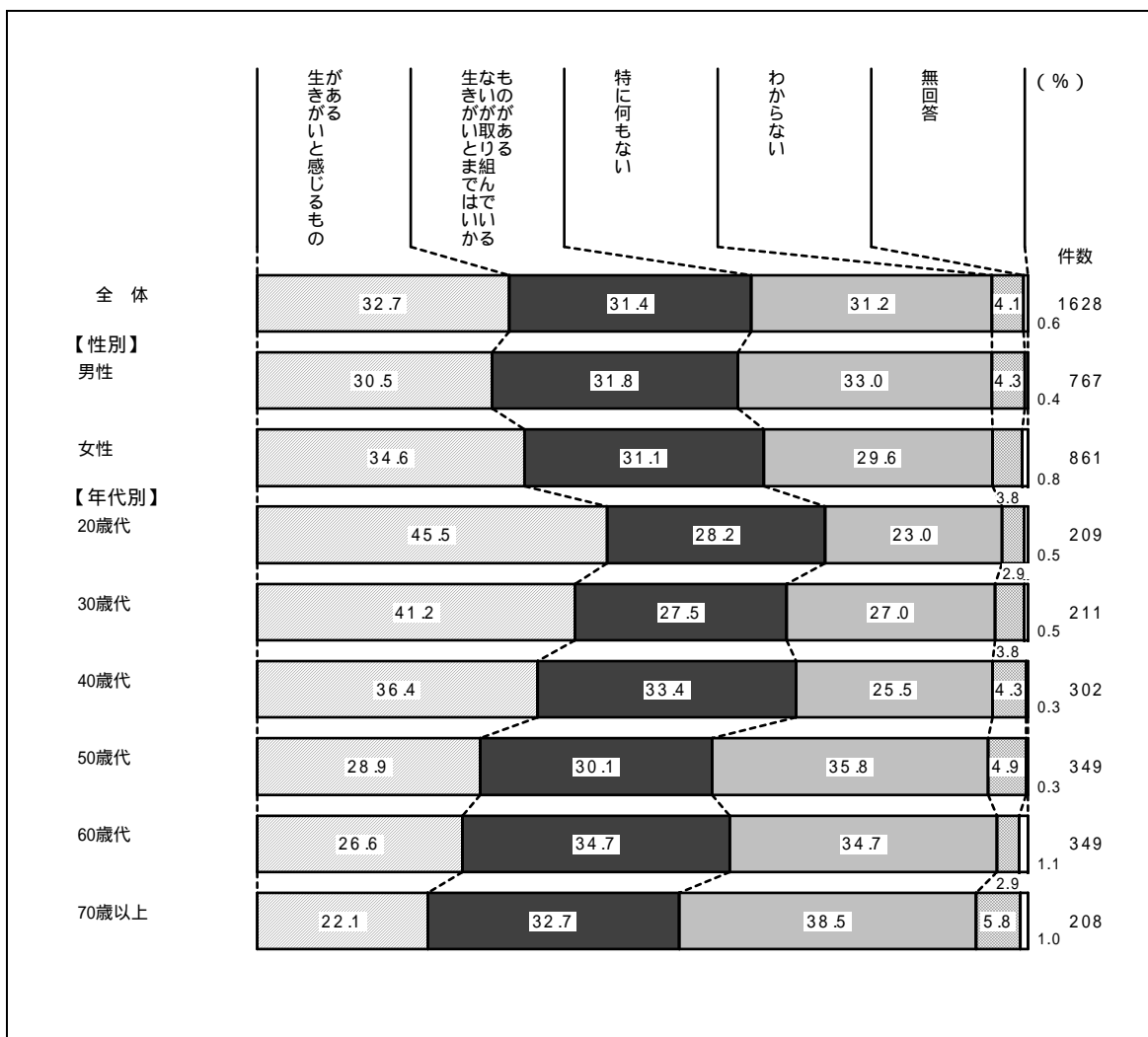
単位：構成比（％）

	件数	老後の生活	家族の健康・病気	自分の健康・病気	税金や保険料などの負担	今後の収入	親などの介護	貯蓄や資産（借金や負債）	家族の進学、就職、結婚などの問題	仕事や職場のこと	近所との人間関係	家族・親族間の人間関係	自分の進学、就職、結婚などの問題	その他	不安に感じることはない	無回答	
全体	1628	65.0	64.5	64.3	63.4	52.0	35.0	28.3	22.5	15.3	12.3	10.8	9.3	3.5	2.0	0.2	
性別	男性	767	59.6	62.8	63.4	60.9	51.2	31.7	28.7	21.0	16.6	12.0	9.6	10.8	3.1	2.7	0.3
	女性	861	69.8	66.0	65.0	65.6	52.6	38.0	27.9	23.8	14.2	12.7	11.8	7.9	3.8	1.4	0.1
年代別	20歳代	209	34.9	53.1	45.5	62.7	56.5	39.7	33.0	12.0	31.1	9.6	10.0	36.8	5.7	2.4	-
	30歳代	211	53.6	61.6	55.5	69.2	57.8	51.7	37.9	28.4	24.2	16.1	14.2	21.8	3.8	1.4	-
	40歳代	302	67.5	68.5	60.3	69.9	58.6	56.6	38.4	37.4	22.5	12.9	11.6	7.0	3.0	2.0	0.3
	50歳代	349	75.1	66.8	66.8	59.0	55.6	39.5	27.5	22.9	11.5	11.7	9.2	1.4	2.9	2.0	0.3
	60歳代	349	74.8	71.1	73.9	63.3	45.8	15.8	19.5	16.6	4.9	10.9	10.3	0.3	3.4	1.7	-
	70歳以上	208	69.7	58.2	77.4	56.3	36.1	6.7	14.9	14.4	3.8	13.9	10.6	0.5	2.9	2.9	0.5

性別で見ると、「老後の生活」は男性（59.6％）よりも女性（69.8％）が高く、10ポイント以上の差がみられます。

年代別で見ると、「老後の生活」と答えた人は50歳代（75.1％）、60歳代（74.8％）で7割以上を占め、「自分の健康・病気」と答えた人は60歳代（73.9％）、70歳以上（77.4％）で7割以上を占めています。「親などの介護」「貯蓄や資産（借金や負債）」と答えた人は30歳代、40歳代で高くなっています。また、「家族の進学、就職、結婚などの問題」と答えた人は30歳代（37.4％）で、「自分の進学、就職、結婚などの問題」と答えた人は20歳代（36.8％）、30歳代（21.8％）で、「仕事や職場のこと」と答えた人は20歳代（31.1％）、30歳代（24.2％）、40歳代（22.5％）で割合が高くなっています。

(15)「生きがい」と感じるもの(問15・S A)

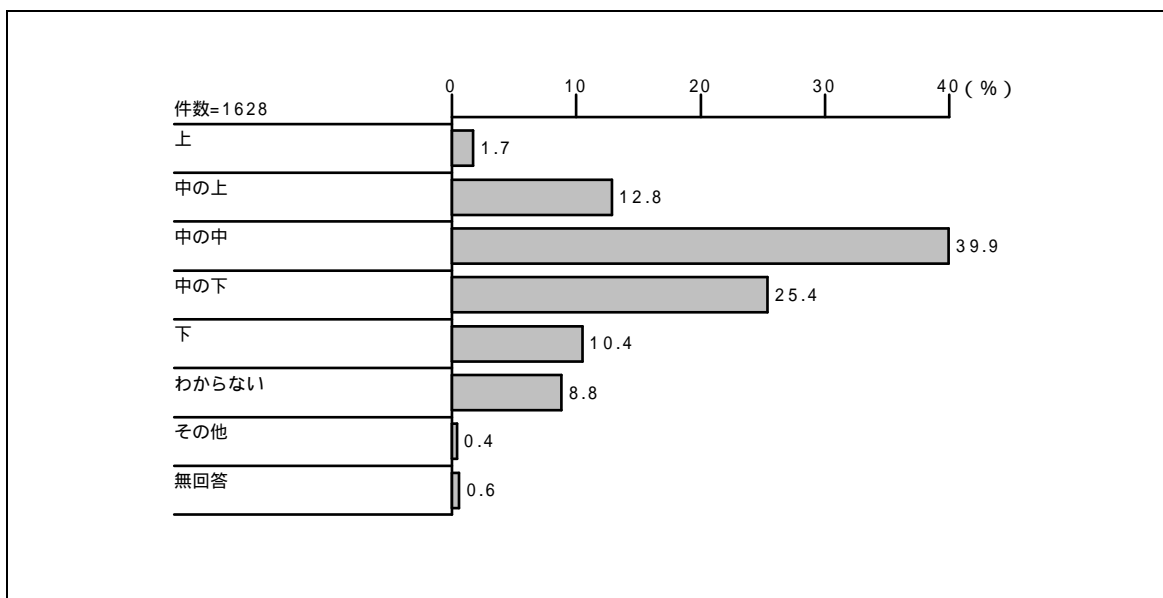


「生きがい」と感じるものがあるかについてたずねたところ、「生きがいを感じるものがある」(32.7%)、「生きがいとまではいかないが、積極的に取り組んでいるものがある」(31.4%)、「特に何も無い」(31.2%)と答えた人は、それぞれ約3割を占め、ほぼ同じような割合になっています。

性別で見ると、「生きがいを感じるものがある」と答えた人は男性(30.5%)よりも女性(34.6%)の方が高くなっています。

年代別で見ると、「生きがいを感じるものがある」と答えた人の割合は年代が高くなるにつれて減少しています。

(16) 家庭の生活の程度 (問16・S A)



家庭生活の程度についてたずねたところ、「中の中」と答えた人の割合が39.9%で最も高く、次いで「中の下」(25.4%)、「中の上」(12.8%)、「下」(10.4%)と続いています。

単位：構成比 (%)

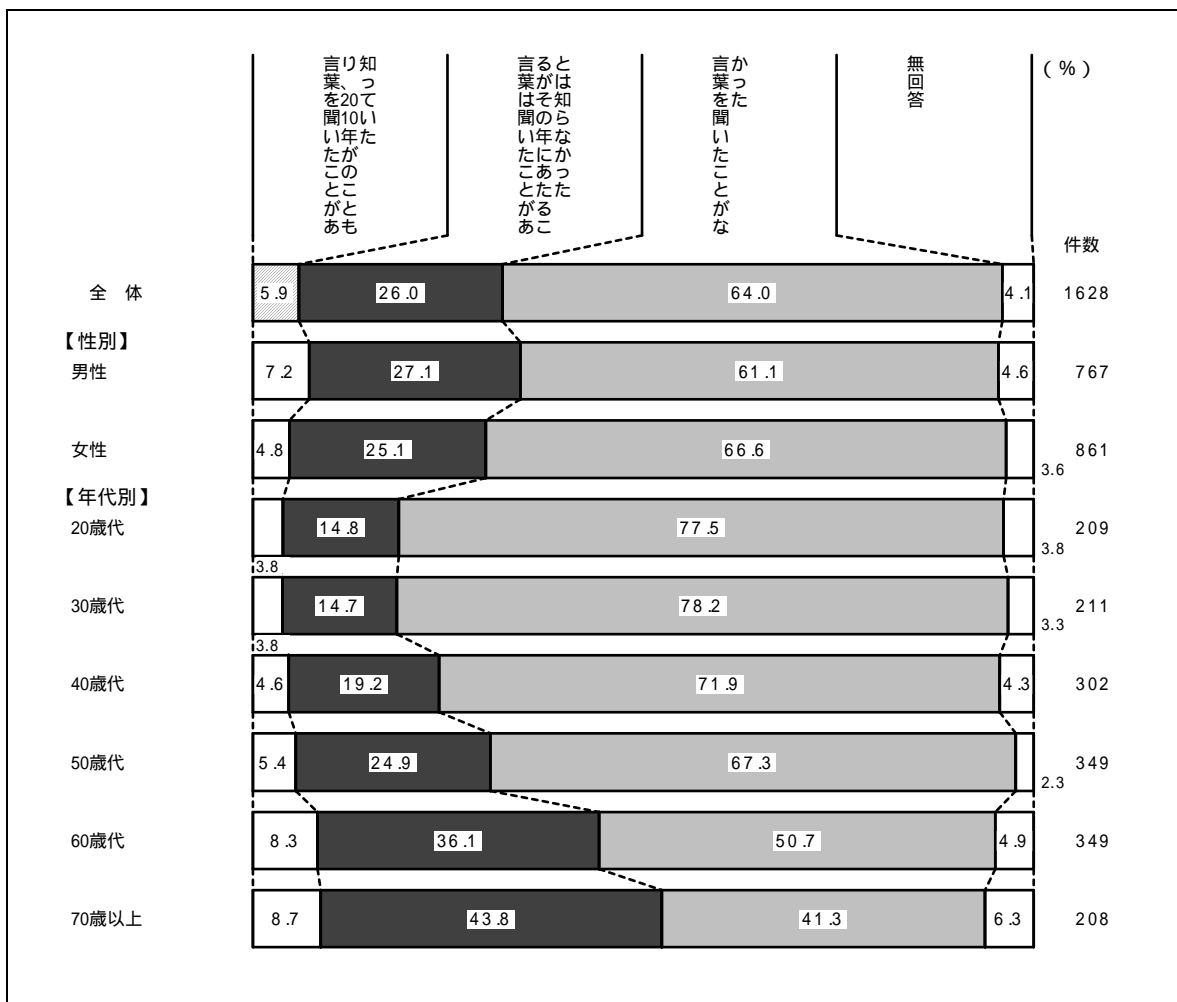
		件数	上	中の上	中の中	中の下	下	わからない	その他	無回答
全体		1628	1.7	12.8	39.9	25.4	10.4	8.8	0.4	0.6
性別	男性	767	1.6	12.8	36.0	28.2	11.5	9.1	0.5	0.4
	女性	861	1.9	12.9	43.4	22.9	9.5	8.5	0.2	0.7
年代別	20歳代	209	2.9	16.3	39.2	24.9	9.1	7.2	-	0.5
	30歳代	211	0.9	10.9	44.5	24.6	7.6	10.4	-	0.9
	40歳代	302	0.3	15.2	42.1	26.8	7.9	6.6	0.7	0.3
	50歳代	349	1.7	17.2	37.2	22.6	10.9	9.7	0.6	-
	60歳代	349	2.0	9.5	38.7	28.4	12.0	8.3	0.3	0.9
	70歳以上	208	2.9	6.3	39.4	24.0	14.9	11.1	0.5	1.0

性別で見ると、「中の中」と答えた人は男性(36.0%)よりも女性(43.4%)の方が高く、「中の下」と答えた人は女性(22.9%)よりも男性(28.2%)の方が高くなっています。

年代別で見ると、「中の中」と答えた人の割合は、30歳代が44.5%で高く、全体(39.9%)の割合を4.6ポイント上回っています。また、「下」と答えた人の割合は、70歳以上が14.9%で高く、全体(10.4%)の割合を4.5ポイント上回っています。

2 名古屋開府400年に向けた行事について

(1) 「名古屋開府400年」という言葉の認知度 (問17・S A)



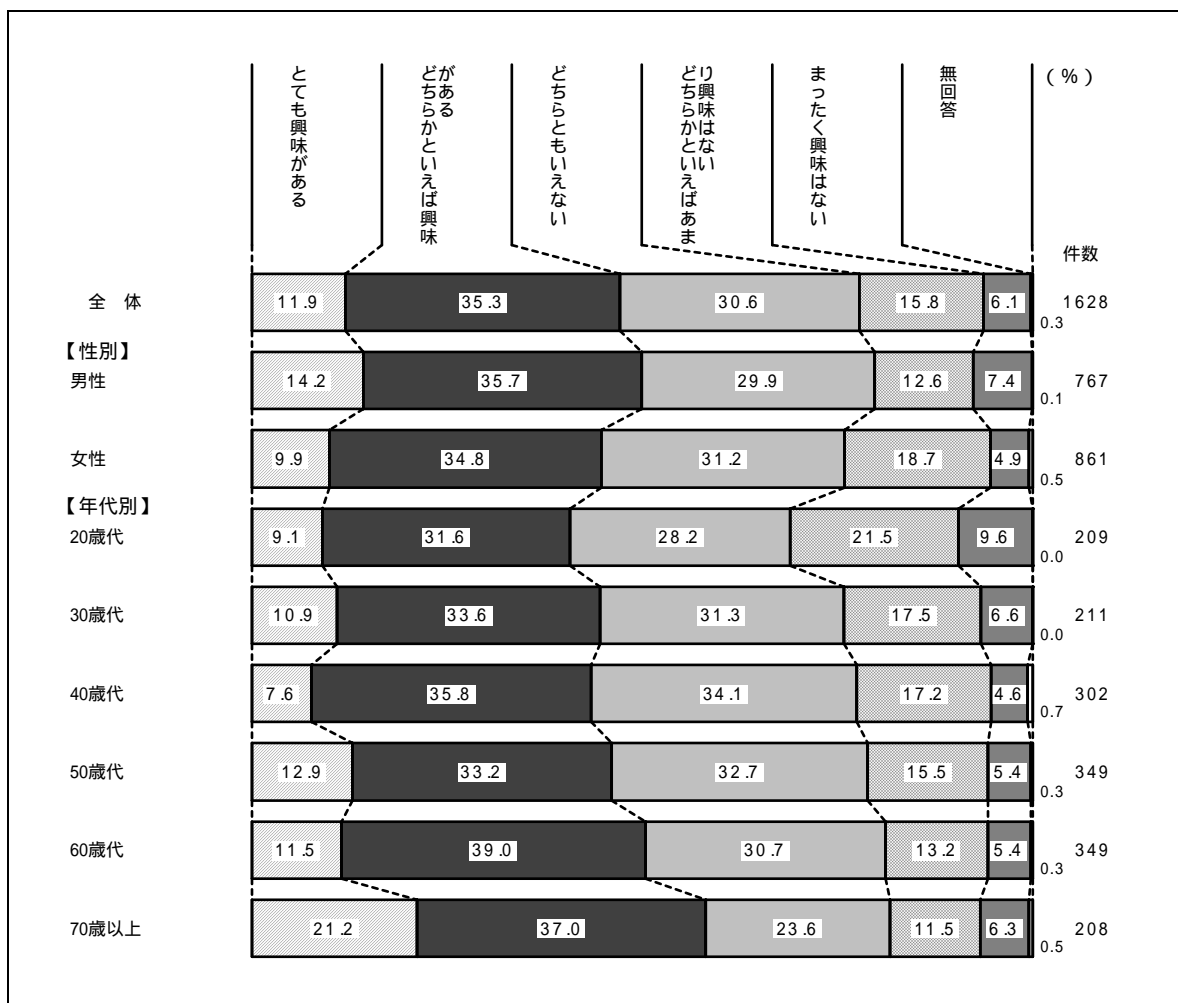
「名古屋開府400年」という言葉の認知度は31.9%であり、うち、2010年であることも知っていた割合は5.9%となっています。一方、「言葉を聞いたことがなかった」(64.0%)と答えた人は6割以上を占めています。

性別で見ると、認知度は、女性(29.9%)よりも男性(34.3%)の方が高くなっています。

年代別で見ると、認知度は年代が高くなるにつれて増加しており、70歳以上では52.5%となっています。また、2010年であることを知っていた割合も年代が高くなるにつれて増加しています。

認知度は、「言葉を聞いたことがあり、2010年であることも知っていた」+「言葉は聞いたことがあるがその年にあたることは知らなかった」

(2) 名古屋の歴史や文化への興味 (問18・S A)



名古屋の歴史や文化に「興味がある¹」と答えた人は47.2%で、「興味はない²」(21.9%)と答えた人の2倍以上の割合を占めています。また、「どちらともいえない」と答えた人は30.6%となっています。

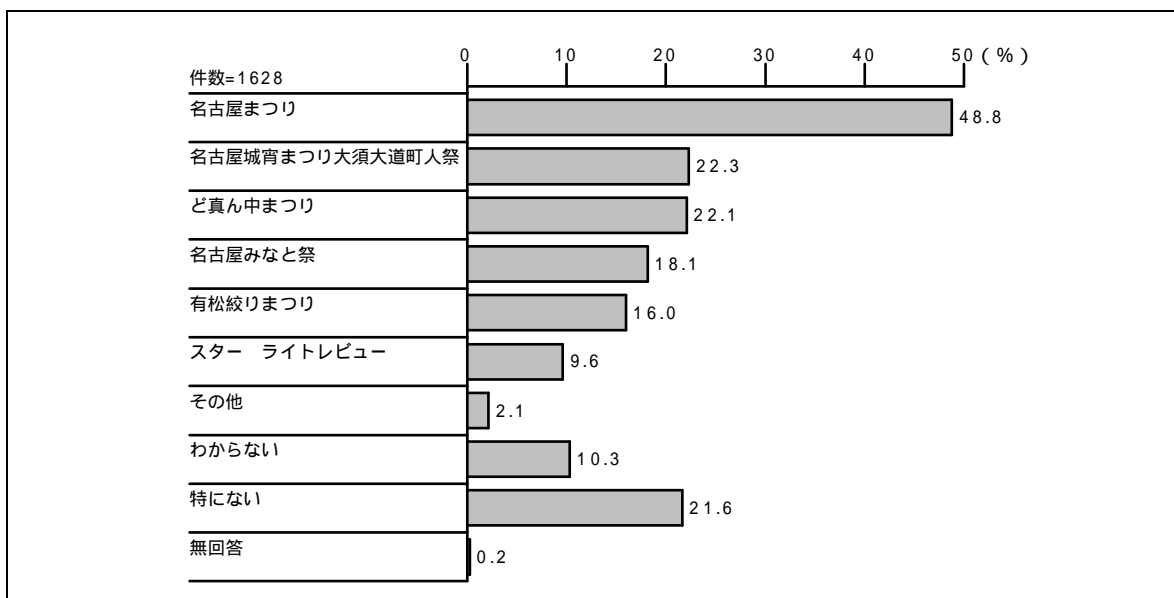
性別で見ると、「興味がある¹」と答えた人は女性(44.7%)よりも男性(49.9%)の方が高くなっています。

年代別で見ると、「興味がある¹」と答えた人は年代が高くなるにつれて増加する傾向にあり、20歳代では40.7%ですが70歳以上では58.2%となっています。

1 「とても興味がある」 + 「どちらかといえば興味がある」

2 「まったく興味はない」 + 「どちらかといえばあまり興味はない」

(3) 観光客に観てもらいたいイベント(問19・MA)



名古屋を訪れる観光客に観てほしいイベントは、「名古屋まつり」と答えた人が48.8%で最も高く、次いで「名古屋城宵まつり大須大道町人祭」(22.3%)、「ど真ん中まつり」(22.1%)、「名古屋みなと祭」(18.1%)の順となっています。一方、「特にない」と答えた人は21.6%となっています。

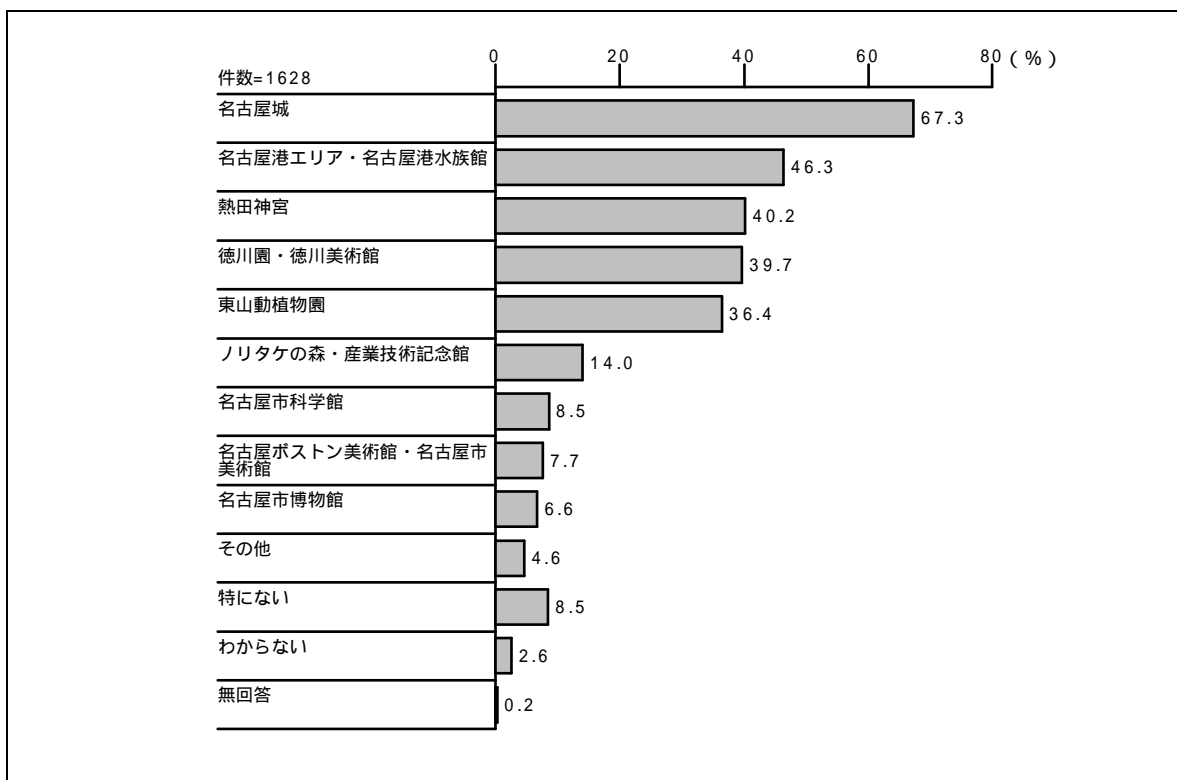
単位：構成比(%)

	件数	名古屋まつり	名古屋城宵まつり大須大道町人祭	ど真ん中まつり	名古屋みなと祭	有松絞りまつり	スターライトレビュー	その他	わからない	特にない	無回答	
全体	1628	48.8	22.3	22.1	18.1	16.0	9.6	2.1	10.3	21.6	0.2	
性別	男性	767	44.2	20.9	21.5	18.1	12.0	8.6	2.1	9.5	26.3	0.3
	女性	861	52.8	23.6	22.5	18.1	19.5	10.6	2.1	11.0	17.4	0.2
年代別	20歳代	209	35.4	14.4	32.5	16.7	5.7	13.9	1.9	7.7	27.8	-
	30歳代	211	41.2	17.1	19.9	17.1	12.8	13.3	4.3	8.1	27.5	-
	40歳代	302	45.4	18.2	19.9	14.2	10.9	8.9	1.0	14.9	23.8	0.7
	50歳代	349	48.1	20.1	18.1	14.3	16.6	8.9	1.7	12.0	24.1	0.3
	60歳代	349	59.3	27.5	22.6	21.5	21.8	7.7	1.4	8.0	14.9	-
	70歳以上	208	58.2	36.5	22.6	26.9	26.0	7.2	3.4	9.6	13.5	0.5

性別で見ると、「名古屋まつり」と答えた人は男性(44.2%)よりも女性(52.8%)の方が高く、「有松絞りまつり」と答えた人も男性(12.0%)よりも女性(19.5%)の方が高くなっています。一方、「特にない」と答えた人は女性(17.4%)よりも男性(26.3%)の方が高くなっています。

年代別で見ると、「名古屋まつり」と答えた人は年代が高いほど増加する傾向にあり、60歳代(59.3%)、70歳以上(58.2%)では約6割を占めています。「名古屋城宵まつり大須大道町人祭」「名古屋みなと祭」「有松絞りまつり」と答えた人は70歳以上で高く、「ど真ん中まつり」と答えた人は20歳代(32.5%)で高くなっています。また、「特にない」と答えた人の割合は年齢が低いほど増加する傾向にあります。

(4) 観光客を案内したい場所 (問20・M A)



他都市から観光客を迎えた時に、案内したい場所は、「名古屋城」と答えた人が67.3%で最も高く、次いで「名古屋港エリア・名古屋港水族館」(46.3%)、「熱田神宮」(40.2%)、「徳川園・徳川美術館」(39.7%)、「東山動植物園」(36.4%)の順となっています。

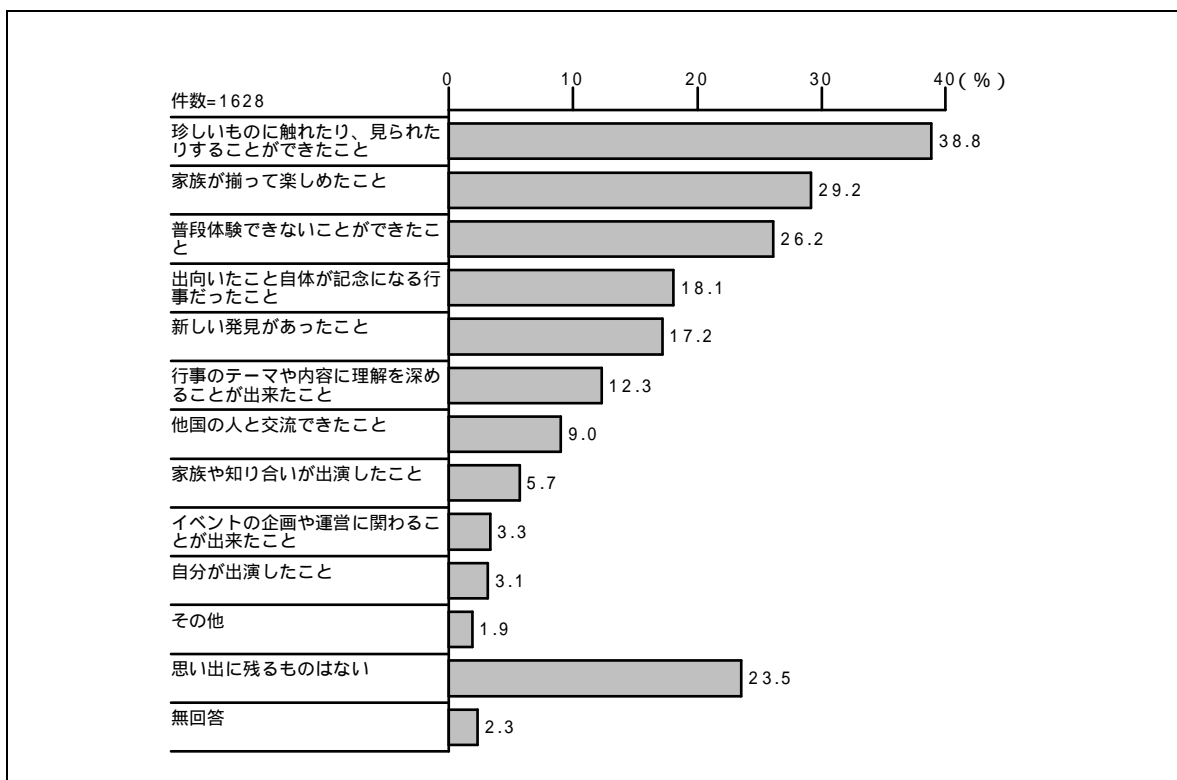
単位：構成比（％）

	件数	名古屋城	名古屋港エリア・名古屋港水族館	熱田神宮	徳川園・徳川美術館	東山動植物園	ノリタケの森・産業技術記念館	名古屋市科学館	名古屋ボストン美術館	名古屋市博物館	その他	特にない	わからない	無回答	
全体	1628	67.3	46.3	40.2	39.7	36.4	14.0	8.5	7.7	6.6	4.6	8.5	2.6	0.2	
性別	男性	767	64.5	43.3	37.9	35.7	31.2	12.6	7.4	7.3	6.1	4.4	11.1	2.5	0.1
	女性	861	69.8	49.0	42.3	43.3	41.1	15.2	9.5	8.0	7.1	4.8	6.2	2.7	0.2
年代別	20歳代	209	64.1	47.4	27.8	21.1	32.1	10.5	5.7	5.3	3.3	10.0	6.7	2.4	-
	30歳代	211	57.3	51.2	37.0	23.7	37.9	11.8	7.1	6.6	4.3	6.6	11.4	2.4	-
	40歳代	302	62.6	42.4	37.7	29.5	33.1	11.3	8.3	4.0	2.0	4.6	10.6	3.3	0.7
	50歳代	349	65.3	46.1	41.0	45.8	35.5	14.3	10.9	8.3	7.2	4.0	8.9	2.9	0.3
	60歳代	349	74.5	45.6	46.1	51.9	37.2	15.5	7.4	7.7	8.6	1.7	7.4	2.0	-
	70歳以上	208	78.8	47.6	48.6	59.1	44.2	20.7	11.1	15.4	14.9	2.9	5.3	2.4	-

性別でみると、「名古屋城」「名古屋港エリア・名古屋港水族館」「熱田神宮」「徳川園・徳川美術館」「東山動植物園」と答えた人は女性に高くなっています。一方、「特にない」と答えた人は女性（6.2％）よりも男性（11.1％）の方が高くなっています。

年代別でみると、「名古屋城」「熱田神宮」「徳川園・徳川美術館」と答えた人は60歳代、70歳以上で高く、「ノリタケの森・産業技術記念館」「名古屋ボストン美術館・名古屋市美術館」「名古屋市博物館」と答えた人は70歳以上で高くなっています。

(5) イベントで思い出に残った事柄 (問21・M A)



今までに出向いたイベントで、思い出に残ったものについてたずねたところ、「珍しいものに触れたり、見られたりすることができたこと」と答えた人が38.8%で最も高く、次いで、「家族が揃って楽しめたこと」(29.2%)、「普段体験できないことができたこと」(26.2%)が2割台で続いています。

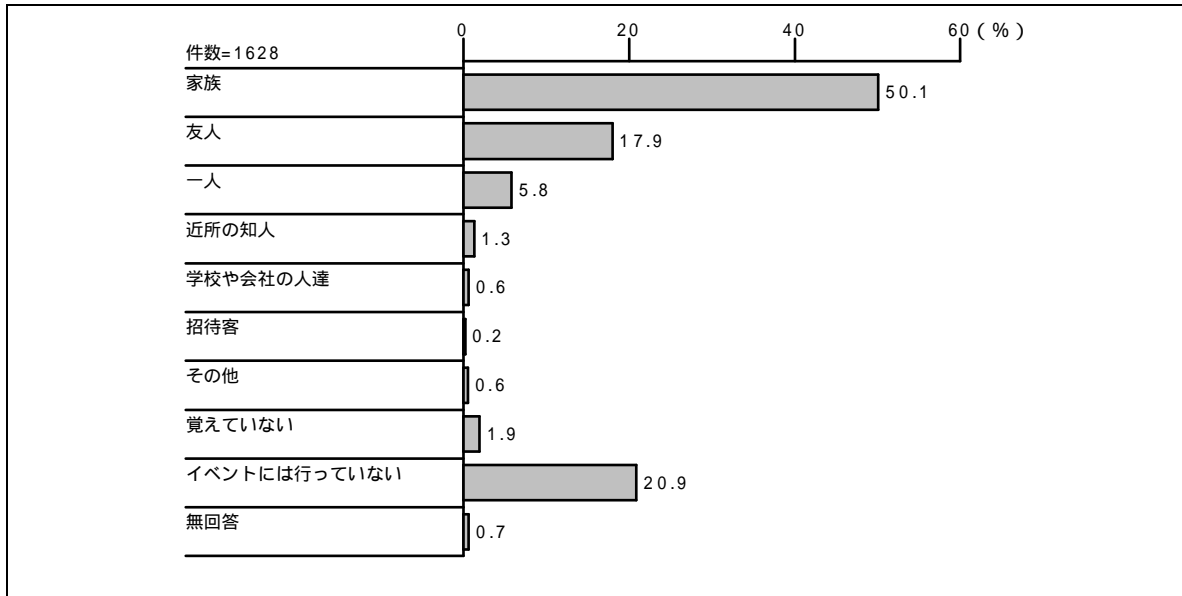
単位：構成比（％）

	件数	珍しいものに触れたり、見られたりすることができたこと	家族が揃って楽しめたこと	普段体験できないことができたこと	出向いたこと自体が記念になる行事だったこと	新しい発見があったこと	行事のテーマや内容に理解を深めることが出来たこと	他国の人と交流できたこと	家族や知り合いが出演したこと	イベントの企画や運営に関わることが出来たこと	自分が出演したこと	その他	思い出に残るものはない	無回答	
全体	1628	38.8	29.2	26.2	18.1	17.2	12.3	9.0	5.7	3.3	3.1	1.9	23.5	2.3	
性別	男性	767	34.3	23.7	23.2	15.6	16.3	11.0	7.8	4.7	3.4	1.7	2.0	29.5	2.0
	女性	861	42.9	34.0	28.8	20.3	18.0	13.5	10.1	6.6	3.3	4.4	1.9	18.2	2.6
年代別	20歳代	209	32.1	17.7	28.7	23.9	22.0	10.0	10.5	2.9	4.8	3.8	1.4	23.0	0.5
	30歳代	211	42.7	35.1	28.9	11.8	15.6	9.0	7.6	1.4	3.3	1.9	1.9	23.7	0.9
	40歳代	302	37.1	37.7	25.2	18.5	14.2	11.3	8.6	5.3	2.3	2.3	0.7	24.5	1.7
	50歳代	349	40.4	26.4	26.6	15.2	18.6	12.0	8.3	8.9	4.0	2.6	2.6	24.9	2.0
	60歳代	349	41.3	28.9	22.9	19.5	18.3	14.9	9.7	6.0	2.9	4.3	2.0	21.5	3.7
	70歳以上	208	37.5	27.4	26.9	20.7	13.9	15.4	9.6	7.7	2.9	3.8	2.9	23.6	4.3

性別でみると、「珍しいものに触れたり、見られたりすることができたこと」「家族が揃って楽しめたこと」「普段体験できないことができたこと」と答えた人は、男性よりも女性の方が高くなっています。一方、「思い出に残るものはない」と答えた人は、女性（18.2%）よりも男性（29.5%）の方が高くなっています。

年代別でみると、「家族が揃って楽しめたこと」と答えた人は30歳代（35.1%）、40歳代（37.7%）で高く、「出向いたこと自体が記念になる行為だったこと」「新しい発見があったこと」と答えた人は20歳代で最も高くなっています。

(6) イベントと一緒に出かけた人 (問22・S A)



2～3年の間に出向いたイベントは誰と一緒にいったのかをたずねたところ、「家族」と答えた人が50.1%で最も高く、次いで「友人」(17.9%)、「一人」(5.8%)の順となっています。一方、「イベントには行っていない」と答えた人は20.9%となっています。

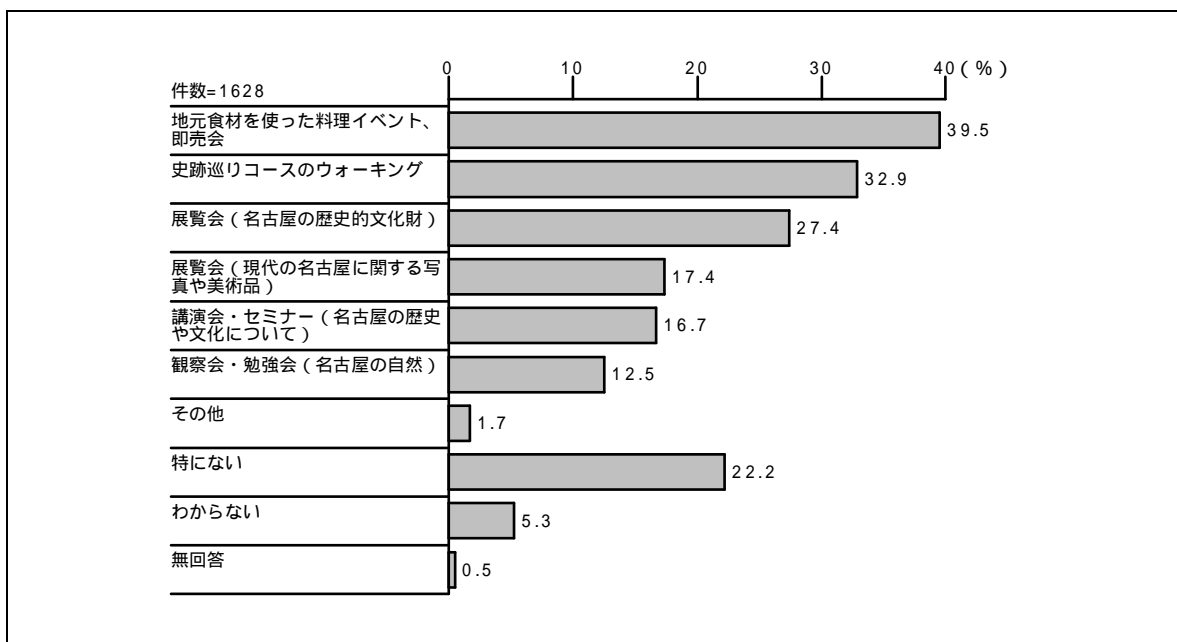
単位：構成比(%)

	件数	家族	友人	一人	近所の知人	学校や会社の人達	招待客	その他	覚えていない	イベントには行っていない	無回答	
全体	1628	50.1	17.9	5.8	1.3	0.6	0.2	0.6	1.9	20.9	0.7	
性別	男性	767	44.7	16.3	7.6	1.0	0.8	0.4	0.4	25.6	0.8	
	女性	861	54.9	19.4	4.3	1.5	-	0.7	1.4	16.7	0.6	
年代別	20歳代	209	24.9	48.3	6.2	-	1.4	-	2.4	3.8	12.9	-
	30歳代	211	57.3	18.0	4.3	-	0.9	-	-	1.9	17.5	-
	40歳代	302	63.6	9.6	3.6	-	1.3	-	0.3	1.3	19.9	0.3
	50歳代	349	55.3	10.6	5.2	1.1	-	0.3	0.6	1.4	24.9	0.6
	60歳代	349	48.4	14.9	6.3	2.9	0.3	0.6	0.3	2.0	23.2	1.1
	70歳以上	208	42.8	16.8	10.6	3.4	-	-	-	1.4	23.1	1.9

性別で見ると、「家族」と答えた人は男性(44.7%)よりも女性(54.9%)の方が高くなっています。一方、「イベントには行っていない」と答えた人は女性(16.7%)よりも男性(25.6%)の方が高くなっています。

年代別で見ると、「家族」と答えた人は30歳代(57.3%)、40歳代(63.6%)、50歳代(55.3%)で高く、「友人」と答えた人は20歳代(48.3%)で高くなっています。また、「一人」と答えた人は70歳以上(10.6%)で高くなっています。一方、「イベントには行っていない」と答えた人は年齢が高くなるにつれて増加する傾向にあり、50歳代以上では2割を超えています。

(7) 参加してみたいイベント(問23・MA)



今後、参加してみたいイベントについてたずねたところ、「地元食材を使った料理イベント、販売会」と答えた人が39.5%で最も高く、次いで「史跡巡りコースのウォーキング」(32.9%)、「展覧会(名古屋の歴史的文化財)」(27.4%)の順となっています。一方、「特にない」と答えた人は22.2%となっています。

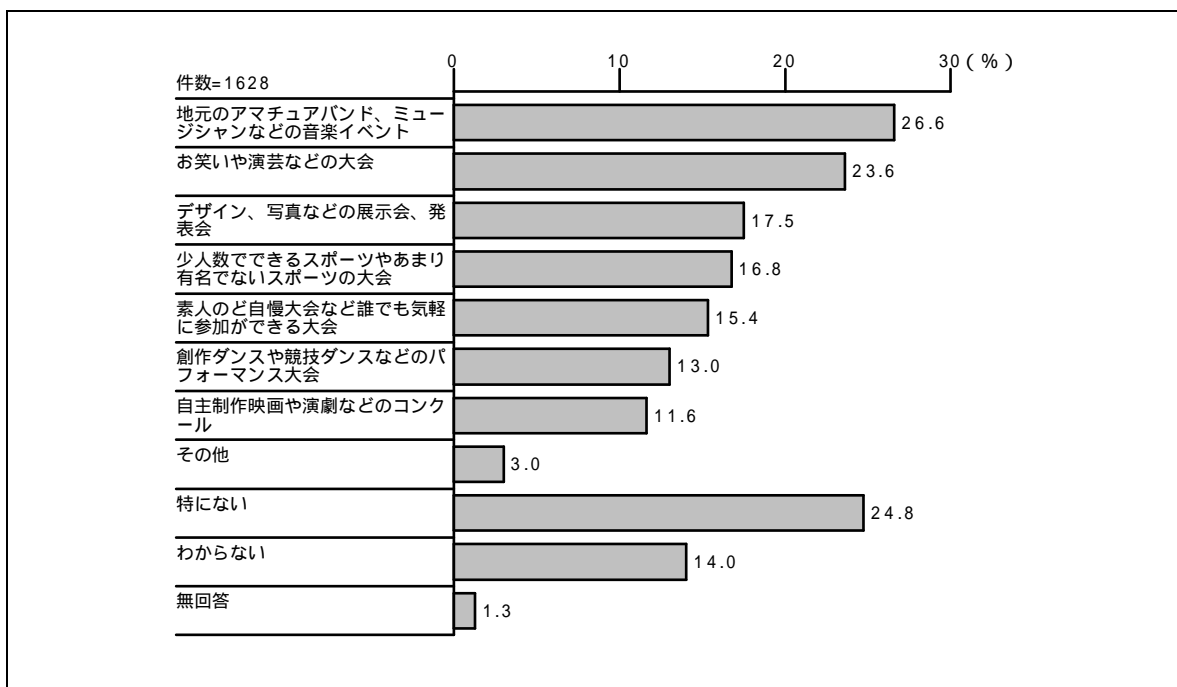
単位：構成比（％）

	件数	地元食材を使った料理イベント、 即売会	史跡巡りコースのウォーキング	展覧会（名古屋の歴史的 文化財）	真や美術品） 展覧会（現代の名古屋に 関する写	講演会・セミナー（名古屋の歴史 や文化について）	観察会・勉強会（名古屋の自然）	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答	
全 体	1628	39.5	32.9	27.4	17.4	16.7	12.5	1.7	22.2	5.3	0.5	
性別	男性	767	29.7	28.0	28.3	17.3	17.6	11.2	2.2	27.2	5.1	0.7
	女性	861	48.2	37.2	26.6	17.4	15.9	13.7	1.3	17.8	5.5	0.3
年代別	20歳代	209	45.5	23.0	18.7	14.8	6.7	11.0	3.3	28.2	3.8	-
	30歳代	211	48.8	17.5	18.5	13.3	11.4	9.5	4.3	25.6	7.6	-
	40歳代	302	40.7	28.1	25.2	14.6	11.6	7.9	1.0	25.8	7.6	0.7
	50歳代	349	39.8	39.0	28.1	17.2	17.8	13.5	1.1	18.6	4.6	0.3
	60歳代	349	34.7	44.4	31.8	20.1	21.8	17.5	0.3	16.3	4.0	0.9
	70歳以上	208	29.8	35.6	39.9	24.0	29.3	13.9	1.9	23.6	4.3	1.0

性別でみると、「地元食材を使った料理イベント、販売会」と答えた人は男性（29.7％）よりも女性（48.2％）の方が高く、「史跡巡りコースのウォーキング」と答えた人も男性（28.0％）よりも女性（37.2％）の方が高くなっています。一方、「特にない」と答えた人は女性（17.8％）よりも男性（27.2％）の方が高くなっています。

年代別でみると、「地元食材を使った料理イベント、販売会」と答えた人は、20歳代（45.5％）、30歳代（48.8％）で高く、「史跡巡りコースのウォーキング」と答えた人は、50歳代（39.0％）、60歳代（44.4％）で高くなっています。また、「展覧会（名古屋の歴史的文化財）」「講演会・セミナー（名古屋の歴史や文化について）」と答えた人は70歳以上で高くなっています。一方、「特にない」と答えた人は、20歳代から60歳代までは年齢が高くなるにつれて減少する傾向にあります。

(8) 市民が中心となった新たなイベント (問24・MA)



市民が中心となった新たなイベントとしてあれば良いものをたずねたところ、「地元のアマチュアバンド、ミュージシャンなどによる音楽イベント」と答えた人が26.6%で最も高く、次いで「お笑いや演芸などの大会」(23.6%)となっています。一方、「特にない」と答えた人は24.8%となっています。

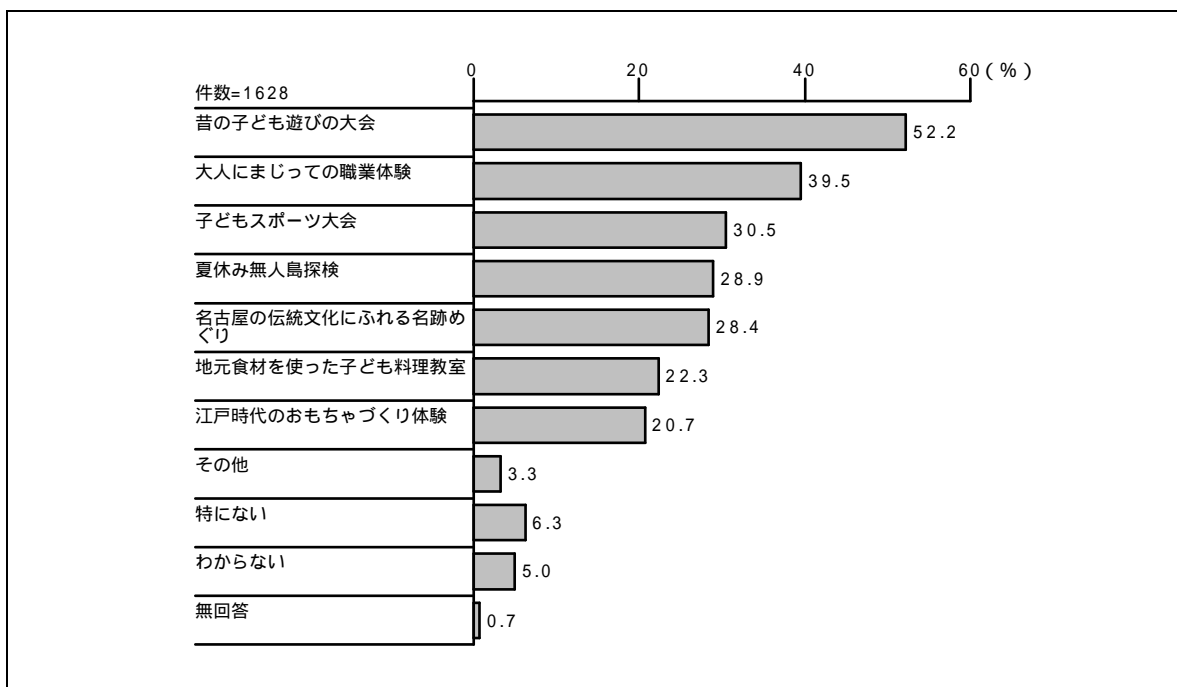
単位：構成比（％）

	件数	地元のアマチュアバンド、ミュージシャンなどの音楽イベント	お笑いや演芸などの大会	デザイン、写真などの展示会、発表会	少人数でできるスポーツやあまり有名でないスポーツの大会	素人のど自慢大会など誰でも気軽に参加ができる大会	創作ダンスや競技ダンスなどのパフォーマンス大会	自主制作映画や演劇などのコンクール	その他	特にない	わからない	無回答	
全体	1628	26.6	23.6	17.5	16.8	15.4	13.0	11.6	3.0	24.8	14.0	1.3	
性別	男性	767	24.5	22.2	17.5	17.7	13.6	9.5	11.2	3.0	27.9	12.5	1.2
	女性	861	28.5	24.9	17.5	15.9	17.0	16.1	12.0	3.0	22.0	15.3	1.4
年代別	20歳代	209	38.3	30.6	24.9	21.5	12.9	23.0	18.7	4.3	15.8	8.6	0.5
	30歳代	211	26.5	24.2	17.1	22.7	17.1	14.2	13.7	3.8	19.4	15.6	0.5
	40歳代	302	27.8	20.5	15.9	16.9	10.9	15.9	8.9	2.0	24.8	17.2	0.7
	50歳代	349	27.2	20.6	17.8	16.3	15.2	11.7	11.2	4.0	27.5	14.6	0.6
	60歳代	349	21.8	21.5	15.2	13.2	17.5	7.2	9.5	1.7	26.9	15.5	3.4
	70歳以上	208	20.2	28.8	16.3	12.5	19.2	9.6	10.6	2.9	30.8	9.6	1.4

性別でみると、「創作ダンスや競技ダンスなどのパフォーマンス大会」と答えた人は男性（9.5％）よりも女性（16.1％）の方が高くなっています。一方、「特にない」と答えた人は女性（22.0％）よりも男性（27.9％）の方が高くなっています。

年代別でみると、「地元のアマチュアバンド、ミュージシャンなどによる音楽イベント」「お笑いや演芸などの大会」「デザイン、写真などの展示会、発表会」「創作ダンスや競技ダンスなどのパフォーマンス大会」「自主制作映画や演劇などのコンクール」と答えた人は20歳代で高くなっています。「少人数でできるスポーツやあまり有名でないスポーツの大会」と答えた人は20歳代（21.5％）、30歳代（22.7％）で高くなっています。一方、「特にない」と答えた人は70歳以上（30.8％）では3割を超えています。

(9) 子どもたちに体験させてみたいと思うイベントや行事 (問25・M A)



子どもたちに体験させてみたいと思うイベントや行事についてたずねたところ、「昔の子ども遊びの大会」と答えた人が52.2%で最も高く、次いで「大人にまじっての職業体験」(39.5%)、「子どもスポーツ大会」(30.5%)、「夏休み無人島探検」(28.9%)、「名古屋の伝統文化にふれる名跡めぐり」(28.4%)の順となっています。

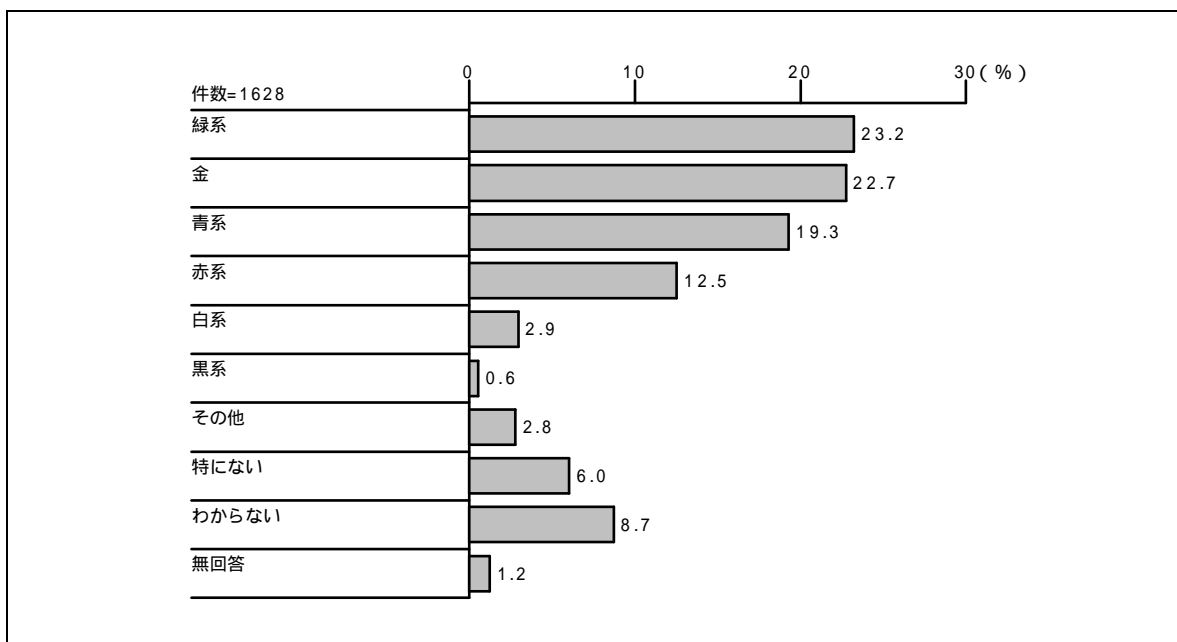
単位：構成比（％）

	件数	昔の子ども遊びの大会	大人にまじっての職業体験	子どもスポーツ大会	夏休み無人島探検	名古屋の伝統文化にふれる名跡めぐり	地元食材を使った子ども料理教室	江戸時代のおもちづくり体験	その他	特にない	わからない	無回答	
全体	1628	52.2	39.5	30.5	28.9	28.4	22.3	20.7	3.3	6.3	5.0	0.7	
性別	男性	767	48.5	35.3	31.0	29.6	25.2	15.5	20.3	2.6	8.9	5.3	0.7
	女性	861	55.5	43.2	30.0	28.3	31.4	28.3	21.0	3.8	3.9	4.6	0.8
年代別	20歳代	209	40.7	43.1	39.7	43.1	18.2	22.5	22.0	4.8	5.3	1.9	-
	30歳代	211	47.4	54.0	36.5	37.9	15.2	26.5	22.3	2.8	3.8	4.7	0.9
	40歳代	302	51.0	48.7	29.8	38.4	28.5	20.9	24.2	2.0	5.3	5.3	0.3
	50歳代	349	56.2	34.4	23.8	24.4	26.6	21.2	20.1	5.4	7.2	4.9	0.6
	60歳代	349	57.3	33.2	29.2	15.8	34.4	22.6	16.9	2.0	8.0	4.0	0.9
	70歳以上	208	55.3	26.9	29.3	21.6	45.2	21.2	20.2	2.4	6.7	9.6	1.9

性別でみると、「地元食材を使った子ども料理教室」と答えた人は男性（15.5％）よりも女性（28.3％）の方が高く10ポイント以上の差があります。また、「昔の子ども遊びの大会」「大人にまじっての職業体験」「名古屋の伝統文化にふれる名跡めぐり」と答えた人についても女性の方が高くなっています。一方、「特にない」と答えた人は女性（3.9％）よりも男性（8.9％）の方が高くなっています。

年代別でみると、「大人にまじっての職業体験」と答えた人は30歳代（54.0％）、40歳代（48.7％）で高く、「子どもスポーツ大会」と答えた人は20歳代（39.7％）、30歳代（36.5％）で、「夏休み無人島探検」と答えた人は20歳代（43.1％）、30歳代（37.9％）、40歳代（38.4％）で高くなっています。

(10) 名古屋開府400年事業のイメージカラー (問26・S A)



名古屋開府400年事業のイメージカラーをたずねたところ、「緑系」(23.2%)と「金」(22.7%)と答えた人がともに2割台となっています。

単位：構成比 (%)

		件数	緑系	金	青系	赤系	白系	黒系	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1628	23.2	22.7	19.3	12.5	2.9	0.6	2.8	6.0	8.7	1.2
性別	男性	767	21.6	22.0	21.0	11.2	3.8	0.7	2.1	8.2	8.2	1.2
	女性	861	24.6	23.3	17.8	13.7	2.2	0.5	3.4	4.1	9.2	1.3
年代別	20歳代	209	12.9	34.9	13.9	20.6	4.3	2.4	3.3	2.9	4.3	0.5
	30歳代	211	16.6	26.1	16.6	18.5	4.7	0.9	4.7	2.8	9.0	-
	40歳代	302	18.2	29.5	17.2	14.6	1.7	-	4.0	6.0	7.3	1.7
	50歳代	349	26.9	19.5	18.9	11.2	3.4	0.3	2.0	8.6	8.9	0.3
	60歳代	349	30.1	14.6	26.1	7.7	1.7	0.3	2.3	5.4	9.7	2.0
	70歳以上	208	29.8	16.3	19.7	5.8	2.9	-	0.5	9.1	13.0	2.9

性別でみると、大きな差はみられません。

年代別でみると、「緑系」と答えた人は高年齢になるにしがたって増加する傾向にあり、「金」と答えた人は若年齢ほど増加する傾向にあります。

(11) 名古屋市が行う行事やイベントのあり方などについて(問27・F A)

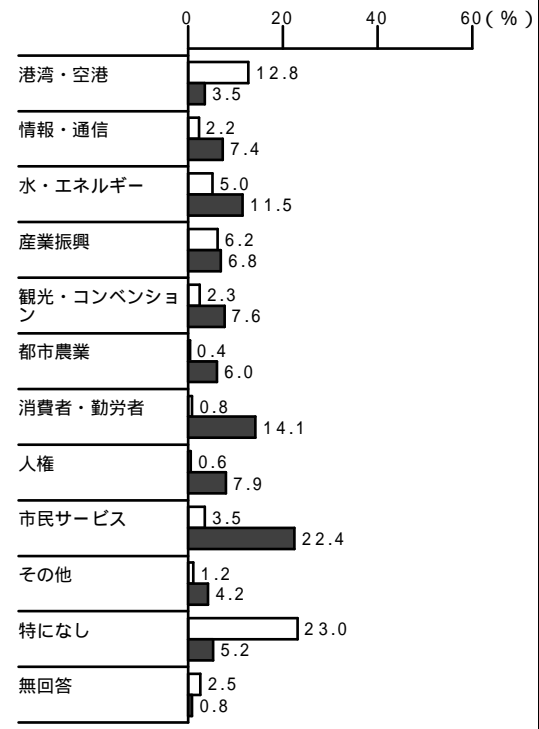
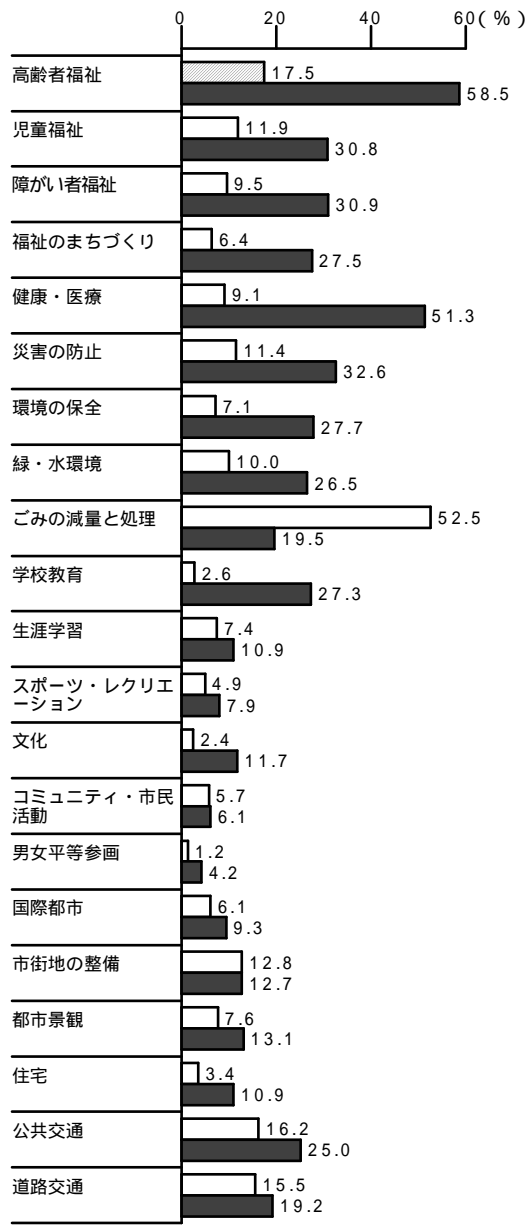
名古屋市が行う行事やイベントのあり方などについて、選択肢を設けず自由に回答してもらったところ、以下のような回答が得られました。

情報提供やPR方法等について(32件)
・ イベントがどこで行われるのかの情報が少ない。もっと市民に関心を持ってもらえるように工夫した方がよい。(3件) ほか
イベント開催に必要なこと(8件)
・ 子どもが小さいので、託児付きの講座やイベントにしてくれると参加しやすいです。(1件)ほか
イベントの開催場所、交通手段などについて(10件)
・ 行事やイベントが行われる際は、交通の便がよい場所で行ってほしい。(2件) ほか
イベント開催への税金の使い方について(13件)
・ 税金の無駄使いをしない行事にしてほしい。(8件) ほか
イベント開催時の交通渋滞等に関すること(11件)
・ 大きなイベントの混雑や渋滞などで迷惑している。行事やイベントの内容を考えるのも重要だが、それらの問題もなくなるように工夫していただきたい。(3件) ほか
イベントの企画・運営への市民や市職員の関わり方(30件)
・ 地域の誰もが何らかの形で参加や運営に関われるのが望ましい。(3件) ほか
お祭や花火大会に関すること(24件)
・ 矢田川の花火大会の復活を望む。(4件) ほか
子どもや高齢者など、誰もが参加できるイベントについて(33件)
・ 市民が気軽に参加できる行事。(5件) ほか
イベントの内容に関すること(具体的な内容)(24件)
・ 芸人やお笑い芸人を招くなど、楽しいものにしてほしい。(1件) ほか
イベントの内容に関すること(全体的イメージ)(59件)
・ 全国の人々が名古屋に目が向く、名古屋に集まるイベントがあるとよい。(2件) ほか
イベントの開催に反対する意見(15件)
・ 名古屋本丸御殿の再建などはないと思う。(3件) ほか
その他(5件)
・ 今までも十分楽しいです。市民のためによく考えられていると思います。(1件) ほか

3 市政について

以下の項目は、現在、名古屋市が進めている事業を分野別に 30 項目にまとめたものです。

		問 28	問 29
		思うこと	め 特 てほし いこと
1 高齢者福祉	介護サービスの充実、高齢者が安心して暮らすための支援など	17.5	58.5
2 児童福祉	保育の充実、援助を必要とする家庭への支援など	11.9	30.8
3 障がい者福祉	障がい者のための施設や制度の充実、仕事をもって暮らすための支援など	9.5	30.9
4 福祉のまちづくり	高齢者や障がい者が移動しやすいまちづくり、福祉ボランティア活動の支援など	6.4	27.5
5 健康・医療	市民の健康づくり、病気の予防、リハビリテーション等の医療の充実など	9.1	51.3
6 災害の防止	地震対策や河川・下水道の水害対策、消防・救急の体制の充実など	11.4	32.6
7 環境の保全	二酸化炭素の排出抑制などの地球環境問題、公害防止への取り組み	7.1	27.7
8 緑・水環境	まちに緑を増やしたり、公園の整備やうるおいのある水辺づくりへの取り組み	10.0	26.5
9 ごみの減量と処理	ごみの発生を抑えること、リサイクルの推進、処理施設の整備など	52.5	19.5
10 学校教育	幼児期から大学までの教育内容の充実、制度・設備の整備など	2.6	27.3
11 生涯学習	誰もが学びたいときに自由に学べるような環境づくりやそのための情報提供など	7.4	10.9
12 スポーツ・レクリエーション	スポーツやレクリエーション活動の普及、施設の整備など	4.9	7.9
13 文化	芸術や文化活動の支援、文化施設の整備、文化財を守ることなど	2.4	11.7
14 コミュニティ・市民活動	住民が地域で活動するための条件整備や活動を活発にしていくこと	5.7	6.1
15 男女平等参画	女性が社会のあらゆる分野で活動できるような環境づくりの推進、女性に対する暴力への対策の推進など	1.2	4.2
16 国際都市	国際交流の推進、外国人市民が暮らしやすいまちづくりなど	6.1	9.3
17 市街地の整備	土地の合理的な利用、まちの整備など	12.8	12.7
18 都市景観	魅力あるまちなみづくり、歴史的に重要な建築物の保存・活用など	7.6	13.1
19 住宅	公営住宅の建設、居住水準の向上など	3.4	10.9
20 公共交通	市バス・地下鉄の整備など	16.2	25.0
21 道路交通	道路の整備、駐車・駐輪対策、交通安全対策など	15.5	19.2
22 港湾・空港	国際競争力をもつ港や空港を整備することなど	12.8	3.5
23 情報・通信	情報ネットワークを活用した市民サービスの向上、安全で格差のない情報化の推進など	2.2	7.4
24 水・エネルギー	安全でおいしい水の安定的な供給、地球環境に配慮したエネルギー利用の促進	5.0	11.5
25 産業振興	中小企業や商店街の支援、研究や開発の活発化など	6.2	6.8
26 観光・コンベンション	観光客を増やしたり、国際会議や見本市などを誘致したりすること	2.3	7.6
27 都市農業	農業への支援、農業を通じた交流の推進	0.4	6.0
28 消費者・勤労者	消費者を守ることや勤労者の福祉を増進させること	0.8	14.1
29 人権	差別や偏見がない社会の実現をめざすこと	0.6	7.9
30 市民サービス	情報公開や提供の推進、区役所・支所等における市民の利便性を向上させることなど	3.5	22.4
31 その他		1.2	4.2
32 特になし		23.0	5.2
無回答		2.5	0.8



凡例
 □ 問28 名古屋市がよくやっていると思うこと
 ■ 問29 名古屋市に特に力を入れて進めてほしいこと
 ()内は順位

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		ごみの減量と処理 52.5%	高齢者福祉 17.5%	公共交通 16.2%	道路交通 15.5%	市街地の整備 港湾・空港 12.8%
性別	男性	ごみの減量と処理 49.0%	道路交通 17.7%	高齢者福祉 17.6%	公共交通 15.6%	市街地の整備 15.4%
	女性	ごみの減量と処理 55.6%	高齢者福祉 17.4%	公共交通 16.6%	道路交通 13.5%	児童福祉 災害の防止 11.4%
年代別	20歳代	ごみの減量と処理 45.9%	公共交通 18.2%	市街地の整備 17.7%	道路交通 16.3%	港湾・空港 12.0%
	30歳代	ごみの減量と処理 42.2%	道路交通 16.1%	公共交通 15.2%	港湾・空港 14.2%	児童福祉 11.8%
	40歳代	ごみの減量と処理 45.7%	道路交通 15.6%	港湾・空港 13.2%	児童福祉 12.9%	公共交通 12.3%
	50歳代	ごみの減量と処理 57.6%	高齢者福祉 15.8%	公共交通 14.0%	道路交通 11.7%	児童福祉 11.2%
	60歳代	ごみの減量と処理 61.0%	高齢者福祉 28.1%	公共交通 18.9%	道路交通 17.2%	緑・水環境 16.3%
	70歳以上	ごみの減量と処理 56.7%	高齢者福祉 29.8%	公共交通 19.7%	健康・医療 18.3%	道路交通 17.3%

男女別順位（上位5項目）

男女別の上位5項目をみると、男女ともに1位が「ごみの減量と処理」となっています。

男性は、2位「道路交通」、3位「高齢者福祉」、4位「公共交通」、5位「市街地の整備」となっています。

女性は、2位「高齢者福祉」、3位「公共交通」、4位「道路交通」、5位「児童福祉」「災害の防止」となっています。

年代別順位（上位5項目）

年代別の上位5項目をみると、「ごみの減量と処理」は全ての年代層で1位となっています。「高齢者福祉」は、50歳代以上の各年代層で2位となっています。また、全体で4位の「道路交通」は、30歳代、40歳代では2位にランクされています。

このほか、全体で6位の「港湾・空港」は20歳代で5位、30歳代で4位、40歳代で3位にランクされ、全体で7位の「児童福祉」は30歳代で5位、全体で9位の「緑・水環境」は60歳代で5位、全体で11位の「健康・医療」は70歳以上で4位にランクされています。

問 28 市政への評価（時系列）

	平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%
1 高齢者福祉		17.8		11.1		20.3		20.4		13.9		15.6		19.3		17.5
2 児童福祉	12	4.5	18	3.3	14	4.1	13	4.7	11	4.7	18	3.5	11	9.5		11.9
3 障がい者福祉		5.8	18	3.3	11	4.8	12	5.0	12	4.3		6.5		10.5		9.5
4 福祉のまちづくり		7.0		5.6		6.1		5.2	13	4.2	15	3.8	15	5.8	15	6.4
5 健康・医療		7.7		6.7		6.5		7.0		5.5	14	3.9		9.6	11	9.1
6 災害の防止	11	4.7		10.7		12.8		12.4		9.8		6.6		10.6		11.4
7 環境の保全	22	1.9	20	2.8	17	3.5	21	2.3	21	2.6	19	2.8	13	6.9	14	7.1
8 緑・水環境		10.3		11.6		9.6		10.3		8.1		5.0		10.2		10.0
9 ごみの減量と処理		56.6		64.9		60.1		53.0		42.0		54.5		54.3		52.5
10 学校教育	23	1.7	23	1.5	22	2.1	23	1.6	22	2.5	20	2.0	23	2.9	23	2.6
11 生涯学習	13	3.6		5.2		4.9	17	3.2	16	3.7		5.0	12	8.3	13	7.4
12 スポーツ・レクリエーション		7.2		5.7		5.2	11	5.1		4.9	24	1.4	20	5.1	20	4.9
13 文化	17	2.8	17	3.7	18	3.4	18	3.1	19	2.8	26	1.0	22	3.0	24	2.4
14 コミュニティ・市民活動	19	2.6	14	4.1	20	2.9	20	2.4	20	2.6	13	4.1	16	5.8	18	5.7
15 男女平等参画	28	0.5	26	1.1	25	1.4	25	0.8	25	0.8	27	0.7	27	1.5	27	1.2
16 国際都市	21	2.0	22	1.6	23	1.5	23	1.6	24	1.3	11	4.8	14	6.6	17	6.1
17 市街地の整備	15	3.5	13	4.2	16	3.7	15	4.4	14	4.1		7.1		12.3		12.8
18 都市景観	15	3.5	16	4.0	15	4.1	14	4.6	16	3.7	17	3.6	18	5.6	12	7.6
19 住宅	14	3.6	21	2.4	21	2.4	19	2.7	18	3.0	23	1.6	21	3.2	22	3.4
20 公共交通		19.0		15.2		13.1		20.6		20.4		12.0		13.6		16.2
21 道路交通		8.3		7.9		7.5		6.6		6.7		10.5		13.2		15.5
22 港湾・空港	17	2.8	15	4.0	12	4.7		5.3		8.3		9.3		11.6		12.8
23 情報・通信	25	0.8	24	1.4	26	0.6	29	0.3	29	0.6	25	1.2	26	2.3	26	2.2
24 水・エネルギー	10	5.5	11	5.1	13	4.5		7.3		5.1	21	1.9	16	5.8	19	5.0
25 産業振興	29	0.2	28	0.5	29	0.4	26	0.6	26	0.7	12	4.3	19	5.5	16	6.2
26 観光・コンベンション	24	1.1	25	1.3	23	1.5	22	2.2	23	1.9	16	3.7	23	2.9	25	2.3
27 都市農業	29	0.2	30	0.1	30	0.1	30	0.1	30	0.5	28	0.3	30	0.8	30	0.4
28 消費者・勤労者	27	0.6	29	0.2	28	0.5	26	0.6	27	0.6	29	0.2	28	1.2	28	0.8
29 人権	26	0.7	27	0.8	26	0.6	28	0.5	27	0.6	30	0.2	29	1.1	29	0.6
30 市民サービス	20	2.4	12	4.5	19	3.3	16	3.7	15	3.9	22	1.7	25	2.9	21	3.5
31 その他	-	0.6	-	0.5	-	0.2	-	0.4	-	0.2	-	0.4	-	0.3	-	1.2
32 特になし	-	16.6	-	15.5	-	14.9	-	11.2	-	6.6	-	19.8	-	22.8	-	23.0
無回答	-	0.8	-	2.1	-	2.1	-	8.2	-	20.2	-	7.9	-	2.9	-	2.5

注：同率で順位が異なる場合は、実数の差によります。

注：質問に対して選択できる数は、平成 17 年度までは 3 つとしていましたが、平成 18 年度よりあてはまるものすべてを選択できるようになりました。

(2) 市政への要望(名古屋市に特に力を入れて進めてほしいこと)(問29・MA)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		高齢者福祉 58.5%	健康・医療 51.3%	災害の防止 32.6%	障がい者福祉 30.9%	児童福祉 30.8%
性別	男性	高齢者福祉 54.1%	健康・医療 48.6%	児童福祉 30.1%	災害の防止 30.0%	障がい者福祉 27.4%
	女性	高齢者福祉 62.5%	健康・医療 53.7%	災害の防止 35.0%	障がい者福祉 34.0%	児童福祉 31.4%
年代別	20歳代	高齢者福祉 43.1%	健康・医療 33.5%	児童福祉 環境の保全 31.1%	学校教育 30.6%	
	30歳代	健康・医療 53.1%	高齢者福祉 51.2%	児童福祉 47.9%	学校教育 38.4%	障がい者福祉 35.1%
	40歳代	高齢者福祉 49.3%	健康・医療 48.0%	児童福祉 33.4%	災害の防止 31.5%	障がい者福祉 30.1%
	50歳代	高齢者福祉 61.3%	健康・医療 51.9%	災害の防止 35.0%	福祉のまちづくり 33.5%	障がい者福祉 30.4%
	60歳代	高齢者福祉 70.2%	健康・医療 59.0%	災害の防止 34.7%	障がい者福祉 32.7%	環境の保全 29.8%
	70歳以上	高齢者福祉 70.7%	健康・医療 58.2%	災害の防止 35.1%	障がい者福祉 緑・水環境 29.8%	

男女別順位(上位5項目)

男女別の上位5項目をみると、男女ともに1位が「高齢者福祉」、2位が「健康・医療」となっています。

男性は、3位「児童福祉」、4位「災害の防止」、5位「障がい者福祉」、女性は、3位「災害の防止」、4位「障がい者福祉」、5位「児童福祉」となっており、順位は異なりますが、上位5項目の内容は同じです。

年代別順位(上位5項目)

年代別の上位5項目をみると、30歳代を除く年代層では、1位が「高齢者福祉」、2位が「健康・医療」であり、30歳代では1位が「健康・医療」、2位が「高齢者福祉」と逆転しています。

また、全体で5位である「児童福祉」は20歳代、30歳代、40歳代では3位にランクされ、全体で8位の「学校教育」は20歳代で5位、30歳代で4位にランクされています。全体で6位の「環境の保全」は20歳代で3位、60歳代で5位であり、全体で9位の「緑・水環境」は70歳以上で4位にランクされています。

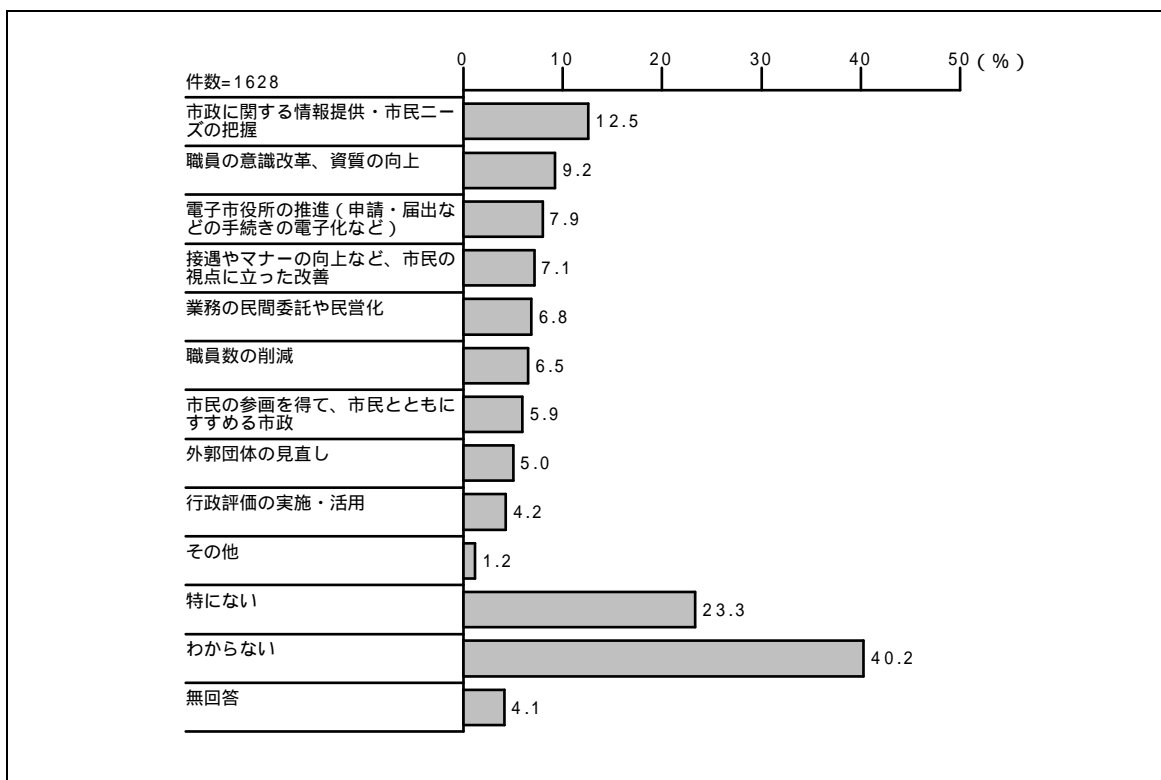
問 29 市への要望（時系列）

	平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%
1 高齢者福祉		37.3		36.4		40.4		35.2		31.3		35.4		57.7		58.5
2 児童福祉		12.4		14.3		13.9		13.3		12.8		17.6		32.8		30.8
3 障がい者福祉		12.3		11.1		11.3		10.4	13	8.5		11.2		31.5		30.9
4 福祉のまちづくり		14.8		14.9		15.9		15.0		13.0		9.7		25.7		27.5
5 健康・医療		15.6		17.5		18.1		17.4		15.7		27.3		45.4		51.3
6 災害の防止		24.4		22.2		20.3		24.5		19.8		21.5		32.3		32.6
7 環境の保全		12.4		13.1		10.1		12.0		9.9		15.0		26.6		27.7
8 緑・水環境	11	10.0	13	8.7	11	9.4		10.2		10.7		8.9		23.3		26.5
9 ごみの減量と処理		13.9		10.2	13	8.2	14	8.3	12	8.7	13	6.7	12	18.2	12	19.5
10 学校教育		12.2		10.5		10.7	11	10.0		12.2		14.3		31.2		27.3
11 生涯学習	14	8.1	15	7.1	15	7.0	15	7.9	16	5.5	16	4.5	19	10.7	19	10.9
12 スポーツ・レクリエーション	22	3.2	23	3.4	23	3.5	20	3.5	19	3.7	22	2.6	21	7.9	22	7.9
13 文化	26	1.8	27	1.8	24	2.9	25	2.7	22	2.8	17	4.0	18	11.2	17	11.7
14 コミュニティ・市民活動	29	1.2	25	2.3	28	2.0	28	2.1	26	2.4	28	1.4	28	5.2	27	6.1
15 男女平等参画	20	3.4	21	3.9	18	4.3	23	2.9	24	2.5	28	1.4	29	4.0	29	4.2
16 国際都市	23	2.6	26	2.3	27	2.0	27	2.5	23	2.6	21	2.6	23	7.0	21	9.3
17 市街地の整備	19	3.5	20	4.4	21	3.8	19	4.3	17	4.1	19	3.1	14	12.8	16	12.7
18 都市景観	21	3.4	21	3.9	20	4.0	18	4.4	18	3.8	18	3.3	17	11.5	15	13.1
19 住宅	17	4.8	17	5.2	17	4.5	17	5.3	20	3.0	15	5.4	20	10.5	20	10.9
20 公共交通	13	9.7	14	8.3		12.8		11.6		10.0		9.2		24.2		25.0
21 道路交通		15.8		10.7		13.5		12.8		10.8	11	8.0	11	18.5	13	19.2
22 港湾・空港	28	1.3	30	0.8	29	1.4	30	0.9	29	1.0	30	0.3	30	2.6	30	3.5
23 情報・通信	24	2.5	24	3.1	25	2.1	25	2.7	28	1.5	26	1.8	24	6.9	25	7.4
24 水・エネルギー	15	6.6	16	6.6	14	7.7	16	6.5	14	6.0	25	2.0	16	11.9	18	11.5
25 産業振興	24	2.5	18	4.7	21	3.8	20	3.5	21	2.9	20	2.7	24	6.9	26	6.8
26 観光・コンベンション	27	1.3	28	1.5	25	2.1	23	2.9	27	2.1	23	2.2	26	6.4	24	7.6
27 都市農業	30	0.7	29	1.3	30	0.9	29	1.2	29	1.0	27	1.7	27	5.8	28	6.0
28 消費者・勤労者	16	5.7	12	9.1	16	6.5	13	9.1	15	5.5	14	6.1	15	12.2	14	14.1
29 人権	18	3.9	19	4.5	19	4.0	22	3.4	24	2.5	24	2.2	22	7.6	23	7.9
30 市民サービス	11	10.0	11	9.8	12	8.7	12	9.4	11	9.5	12	7.8	13	18.1	11	22.4
31 その他	-	1.6	-	1.1	-	2.1	-	1.2	-	2.7	-	2.7	-	3.0	-	4.2
32 特になし	-	5.9	-	5.8	-	5.2	-	3.3	-	2.0	-	5.8	-	6.8	-	5.2
無回答	-	0.4	-	1.5	-	1.4	-	5.1	-	13.7	-	7.8	-	1.9	-	0.8

注：同率で順位が異なる場合は、実数の差によります。

注：質問に対して選択できる数は、平成 17 年度までは 3 つとしていましたが、平成 18 年度よりあてはまるものすべてを選択できるようになりました。

(3) 市の行財政改革の取り組みへの評価 (問30・M A)



市の行財政改革の取り組みのなかで、名古屋市がよく取り組んでいると思うことをたずねたところ、「わからない」と答えた人が40.2%を占めています。評価としては、「市政に関する情報提供・市民ニーズの把握」(12.5%)と答えた人が唯一1割を超えています。一方、「特にない」と答えた人は23.3%となっています。

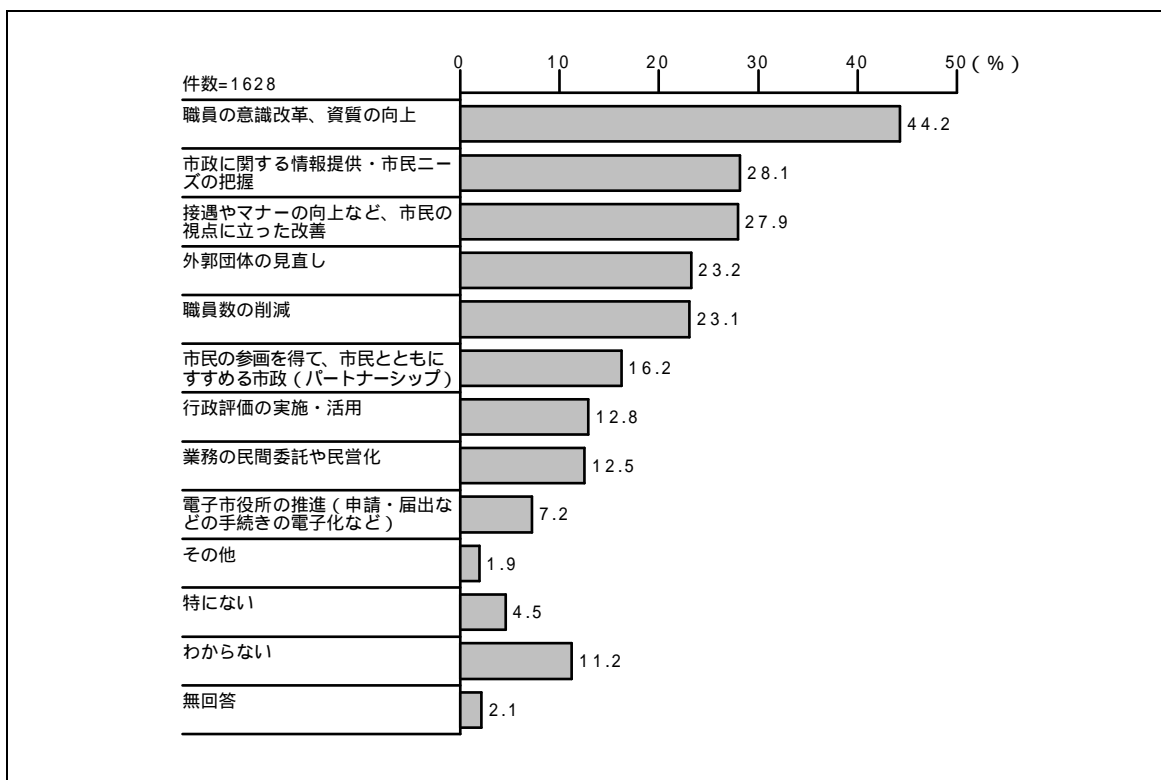
単位：構成比（％）

	件数	市政に関する情報提供・市民ニーズの把握	職員の意識改革、資質の向上	電子市役所の推進（申請・届出などの手続きの電子化など）	接遇やマナーの向上など、市民の視点に立った改善	業務の民間委託や民営化	職員数の削減	市民の参画を得て、市民とともにすすめる市政	外郭団体の見直し	行政評価の実施・活用	その他	特にない	わからない	無回答	
全体	1628	12.5	9.2	7.9	7.1	6.8	6.5	5.9	5.0	4.2	1.2	23.3	40.2	4.1	
性別	男性	767	13.6	10.2	8.3	8.2	7.2	8.3	6.9	5.5	5.7	1.7	26.6	33.6	3.7
	女性	861	11.6	8.4	7.5	6.2	6.5	4.9	5.0	4.5	2.9	0.7	20.3	46.1	4.5
年代別	20歳代	209	6.2	5.3	4.8	4.3	6.7	2.9	4.8	4.3	2.9	1.9	26.3	49.3	1.9
	30歳代	211	4.7	6.2	4.7	2.8	3.3	5.7	4.3	2.8	2.8	1.9	28.9	49.3	1.9
	40歳代	302	7.9	5.3	9.9	6.0	6.3	5.0	4.3	2.6	3.3	0.3	24.8	44.4	3.0
	50歳代	349	12.3	9.7	8.9	6.0	7.7	6.0	5.7	3.2	2.3	1.1	24.6	41.3	2.6
	60歳代	349	21.2	12.9	9.5	11.7	8.9	9.5	6.9	8.9	6.0	1.4	17.8	31.2	5.7
	70歳以上	208	19.2	14.9	7.2	10.1	6.3	9.1	9.6	7.7	8.7	0.5	19.2	29.3	10.1

性別で見ると、「特にない」と答えた人は女性（20.3％）よりも男性（26.6％）の方が高く、「わからない」と答えた人は男性（33.6％）よりも女性（46.1％）の方が高くなっています。

年代別で見ると、「市政に関する情報提供・市民ニーズの把握」と答えた人は60歳代（21.2％）、70歳以上（19.2％）で高く、「職員の意識改革、資質の向上」と答えた人も60歳代（12.9％）、70歳以上（14.9％）で高くなっています。一方、「わからない」と答えた人は20歳代（49.3％）、30歳代（49.3％）で高くなっています。

(4) 市の行財政改革の取り組みへの要望 (問31・M A)



市の行財政改革の取り組みのなかで、特に力を入れて進めてほしいものは、「職員の意識改革、資質の向上」と答えた人が44.2%で最も高く、次いで「市政に関する情報提供・市民ニーズの把握」(28.1%)、「接遇やマナーの向上など、市民の視点に立った改善」(27.9%)、「外郭団体の見直し」(23.2%)、「職員数の削減」(23.1%)の順となっています。

単位：構成比（％）

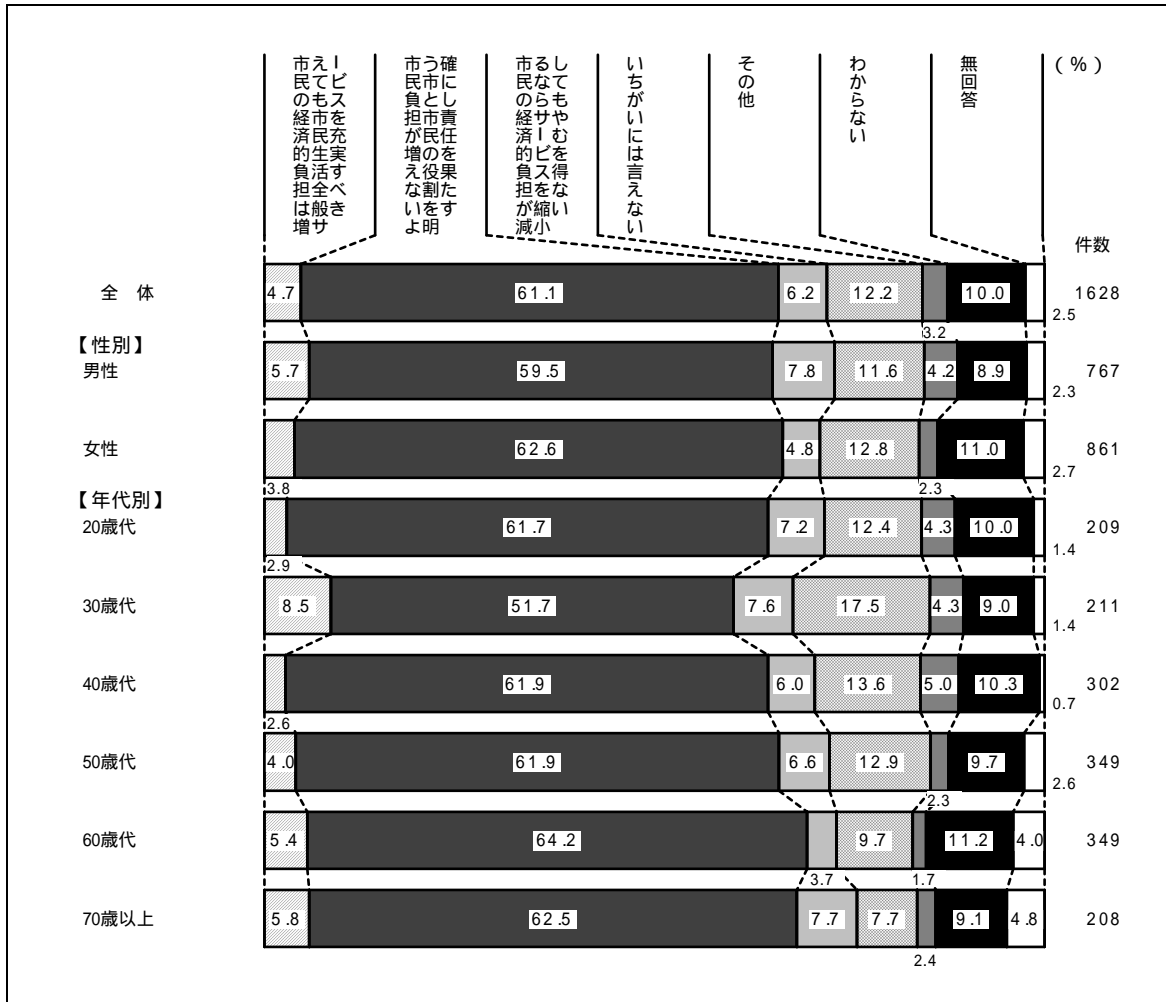
	件数	職員の意識改革、資質の向上	市政に関する情報提供・市民ニーズの把握	接遇やマナーの向上など、市民の視点に立った改善	外郭団体の見直し	職員数の削減	市民の参画を得て、市民とともにすすめる市政（パートナースhip）	行政評価の実施・活用	業務の民間委託や民営化	電子市役所の推進（申請・届出などの手続きの電子化など）	その他	特になし	わからない	無回答	
全体	1628	44.2	28.1	27.9	23.2	23.1	16.2	12.8	12.5	7.2	1.9	4.5	11.2	2.1	
性別	男性	767	42.0	28.4	24.6	28.0	16.8	15.4	15.6	6.9	2.2	5.3	8.3	2.0	
	女性	861	46.2	27.9	30.8	18.9	21.4	10.6	9.6	7.4	1.6	3.8	13.7	2.2	
年代別	20歳代	209	38.8	30.6	34.9	16.7	21.1	16.7	13.9	9.1	9.6	1.4	3.3	15.3	1.4
	30歳代	211	40.8	28.0	31.3	16.6	14.7	13.7	12.3	10.4	5.2	2.4	6.2	12.8	1.4
	40歳代	302	44.4	25.5	30.5	25.5	22.2	15.9	12.6	13.2	9.6	2.0	3.6	9.9	0.7
	50歳代	349	47.0	25.8	26.9	30.1	26.6	17.5	8.9	11.2	7.7	1.4	5.2	9.2	2.0
	60歳代	349	47.9	29.8	22.9	23.8	25.5	16.3	13.2	14.6	6.3	2.3	2.0	11.5	3.2
	70歳以上	208	42.3	30.8	23.6	20.7	25.0	16.3	18.8	15.4	3.8	1.9	8.7	10.1	3.8
職業別	会社員（フルタイム）	477	43.6	25.6	30.6	25.8	24.7	15.5	12.4	13.6	8.2	2.3	4.0	9.2	0.4
	公務員	34	29.4	23.5	20.6	32.4	11.8	17.6	17.6	23.5	8.8	2.9	8.8	5.9	0.0
	自営・自由業	211	43.1	30.8	26.1	22.3	24.6	16.6	15.2	16.1	8.1	2.8	6.6	7.6	0.5
	アルバイト・パート（派遣も含む）	240	49.6	26.3	32.1	17.1	23.8	17.1	7.9	12.5	7.5	1.3	2.9	14.6	2.9
	家事専業	264	47.7	32.6	30.7	20.1	21.6	15.2	13.3	9.1	6.8	1.1	3.0	12.1	0.8
	学生	53	41.5	34.0	37.7	20.8	22.6	13.2	15.1	9.4	13.2	0.0	3.8	13.2	0.0
	無職	258	40.3	30.2	18.2	26.0	22.9	16.7	14.3	11.6	4.7	2.3	6.6	14.7	3.1
	その他	72	52.8	22.2	27.8	33.3	22.2	23.6	18.1	9.7	1.4	1.4	4.2	8.3	2.8

性別でみると、「外郭団体の見直し」と答えた人は女性（18.9％）よりも男性（28.0％）の方が高く、「業務の民間委託や民営化」と答えた人も女性（9.6％）よりも男性（15.6％）で高くなっています。また、「接遇やマナーの向上など、市民の視点に立った改善」と答えた人は男性（24.6％）よりも女性（30.8％）で高くなっています。

年代別でみると、「接遇やマナーの向上など、市民の視点に立った改善」と答えた人は20歳代（34.9％）で高く、「外郭団体の見直し」は50歳代（30.1％）で、「行政評価の実施・活用」は70歳以上（18.8％）で高くなっています。

職業別でみると、「外郭団体の見直し」と答えた人は公務員（32.4％）、その他（33.3％）で高く、「業務の民間委託や民営化」は公務員（23.5％）で高くなっています。

(5) 行政サービスと市民の経済的負担との関係についての考え方 (問32・S A)



行政サービスと市民の経済的負担との関係についてたずねたところ、「市民の経済的負担がこれ以上増えないように、市と市民とはそれぞれの役割分担を明確にし、責任を果たしていくべき」と答えた人が61.1%と高くなっています。

性別で見ると、大きな差はみられません。

年代別で見ると、「市民の経済的負担がこれ以上増えないように、市と市民とはそれぞれの役割分担を明確にし、責任を果たしていくべき」と答えた人は30歳代（51.7%）のみ6割を下回っています。